

飯塚市地域福祉推進協議会

市民アンケート調査の結果、 市民団体ヒアリングの結果について

内容

1. はじめに
2. 市民アンケート調査結果の概要
3. 団体ヒアリング調査結果の概要
4. まとめ

はじめに

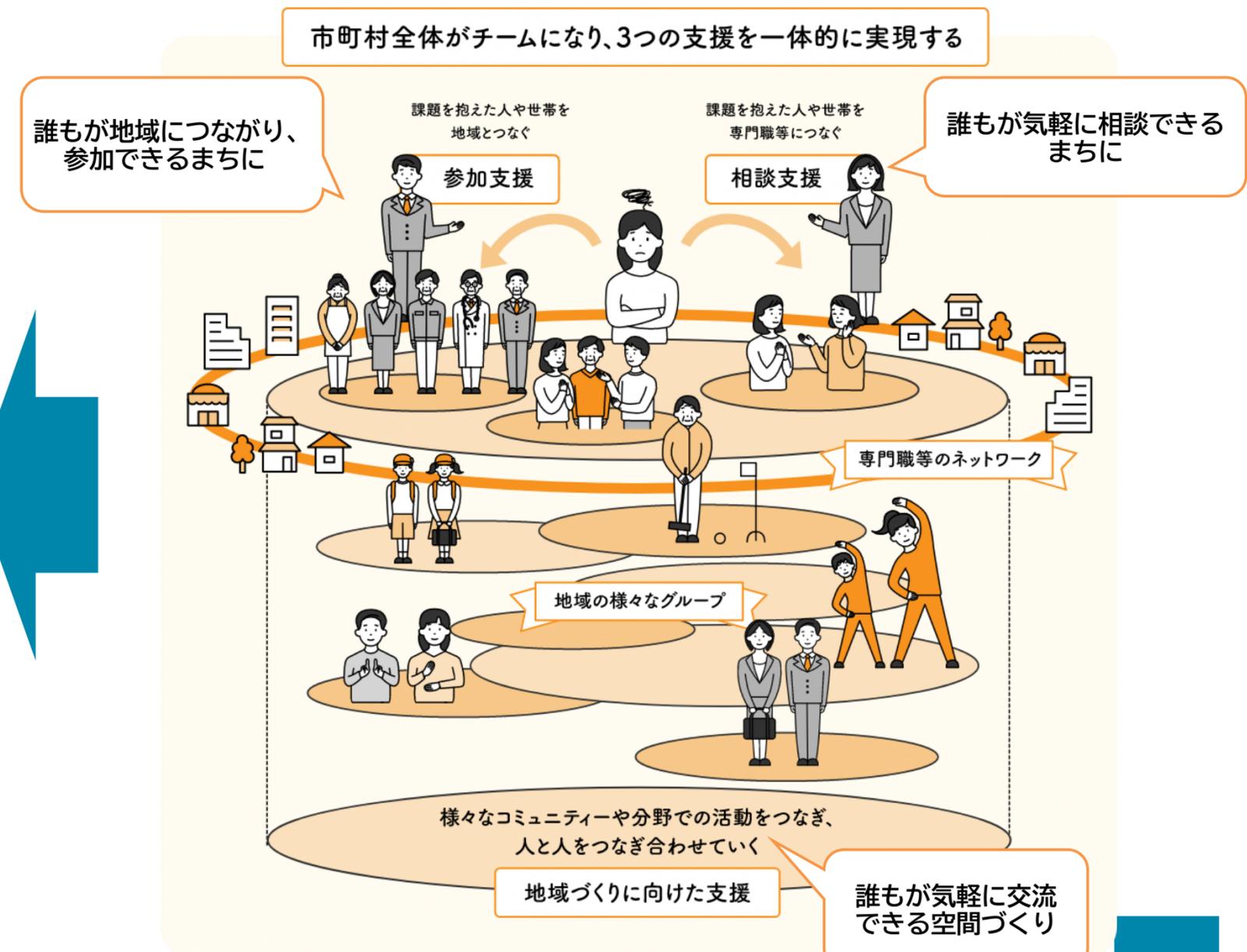
はじめに

■これからの地域福祉：地域共生社会の構築

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を指しています。



■重層的支援体制



市民アンケート調査結果の概要

調査概要

1. 実施概要

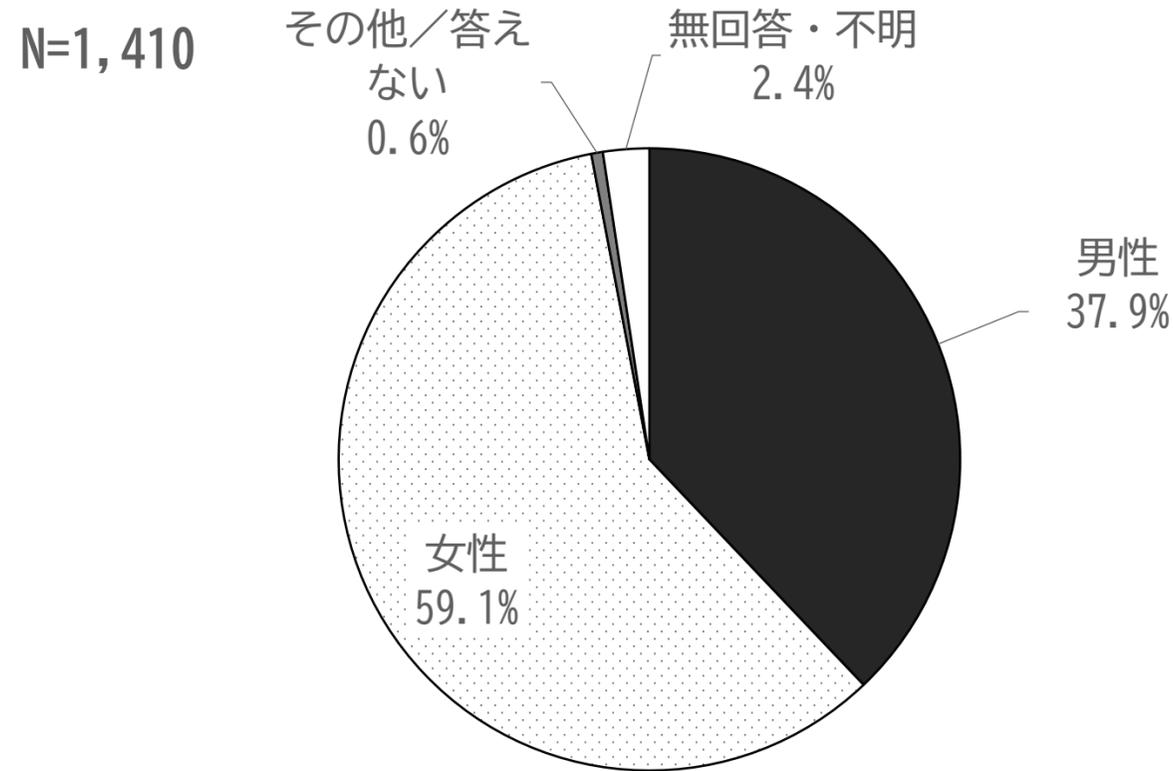
- 調査対象者 : 令和4年5月1日現在、飯塚市に住んでいる 18 歳以上の方
- 対象者数 : 3,000 人
- 調査期間 : 令和4年6月 17 日～令和4年7月16日まで
- 調査方法 : 郵送調査法、WEB調査の併用

2. 回収結果

配布数	有効回収数	有効回答率
3,000件	1,410件 ・ 郵送による回答 : 1,280件 ・ WEBによる回答 : 130件	47.0%

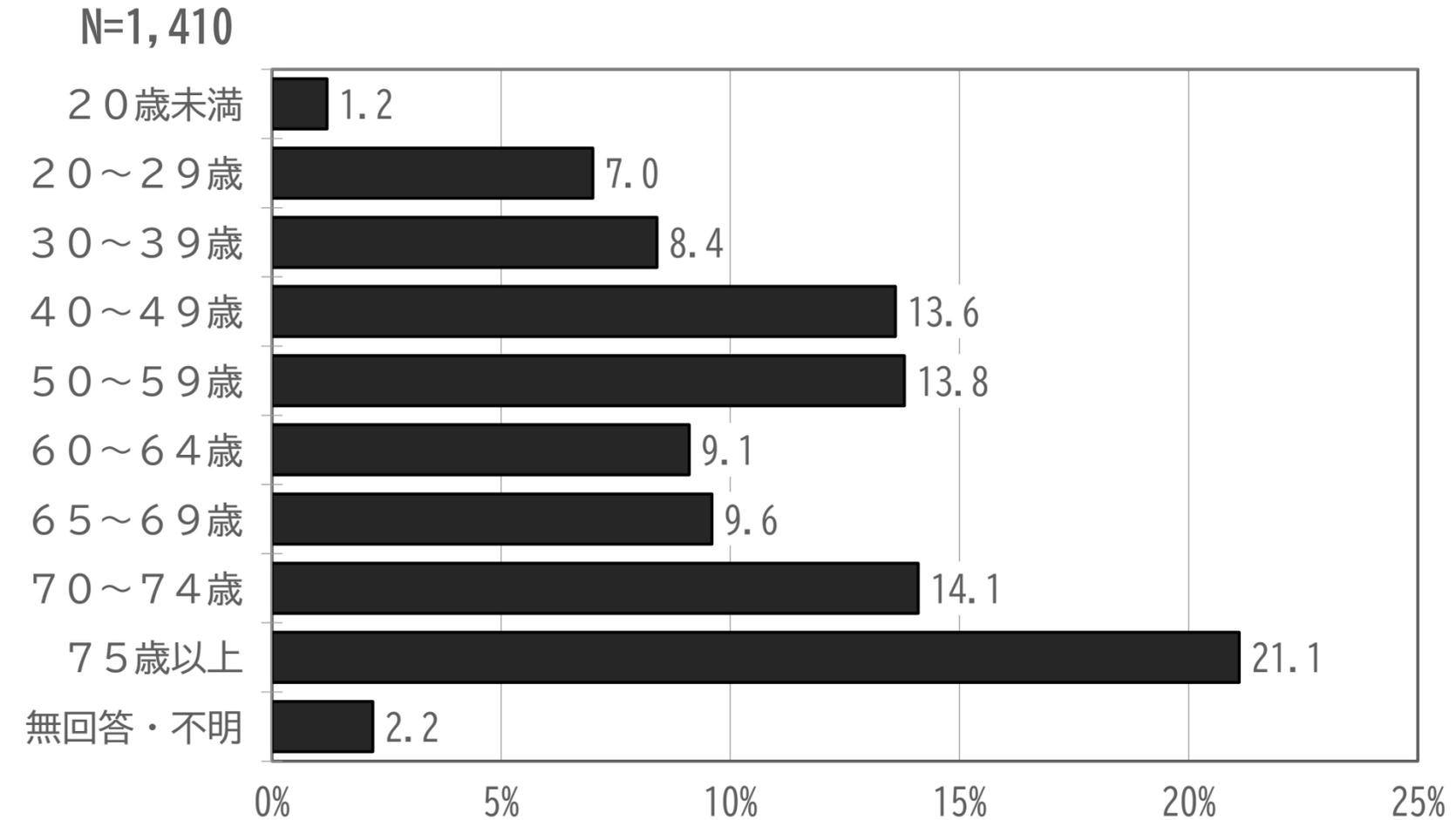
回答者属性

■性別



性別については、「女性」が59.1%、「男性」が37.9%、「その他/答え ない」が0.6%となっています。

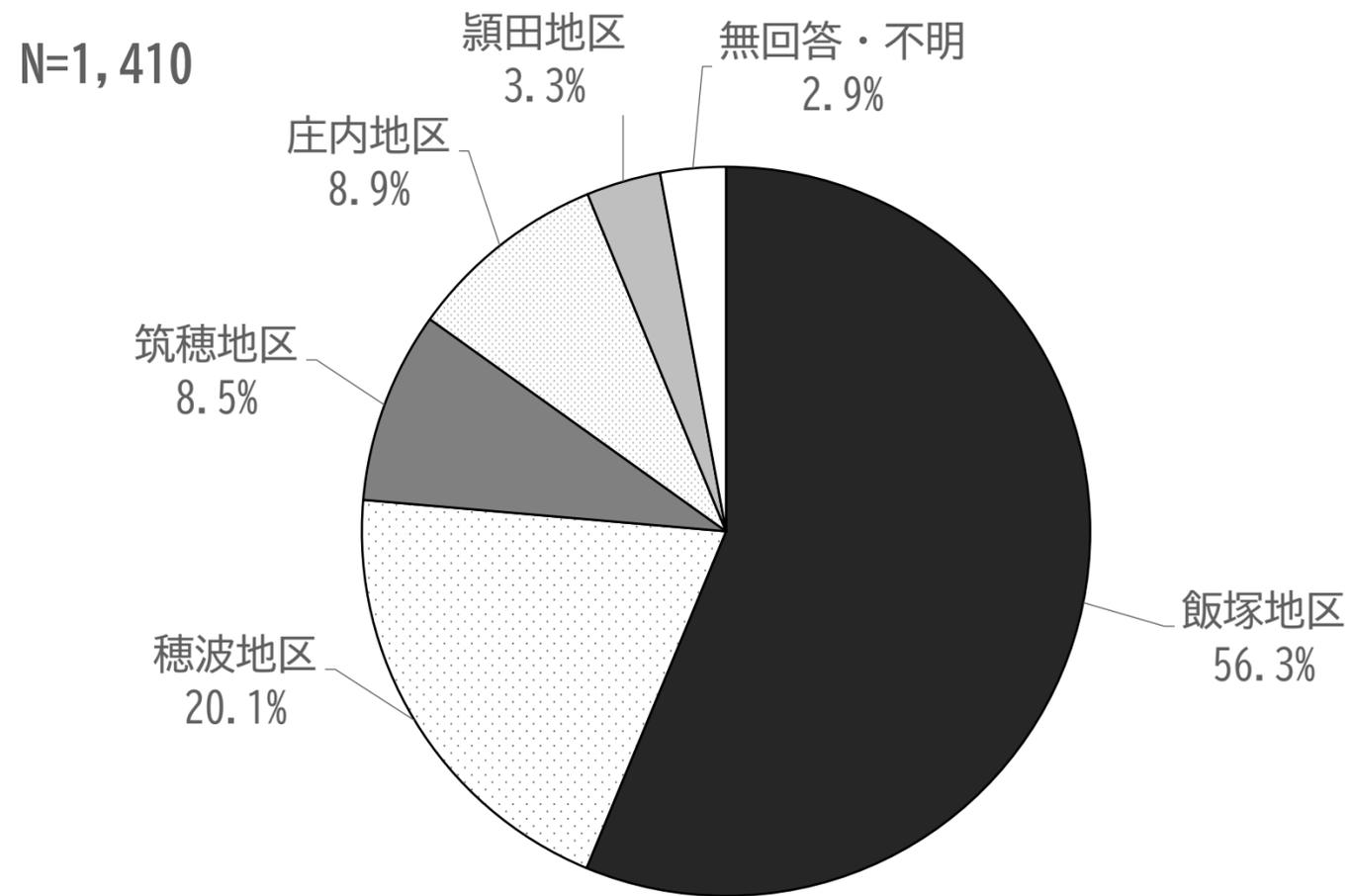
■年代



「75歳以上」が21.1%、「70~74歳」が14.1%、「50~59歳」が13.8%となっています。

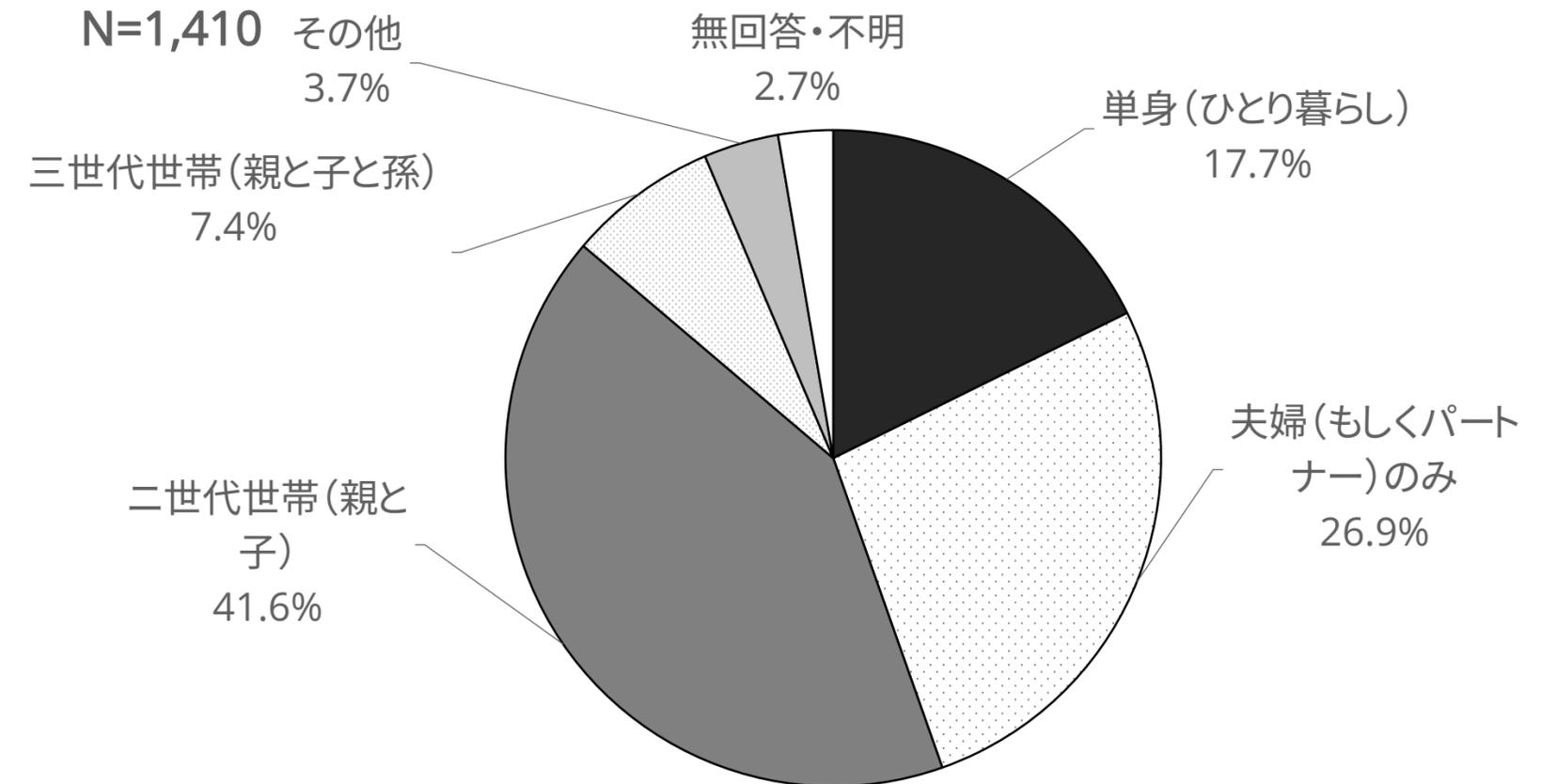
回答者属性

■居住地区



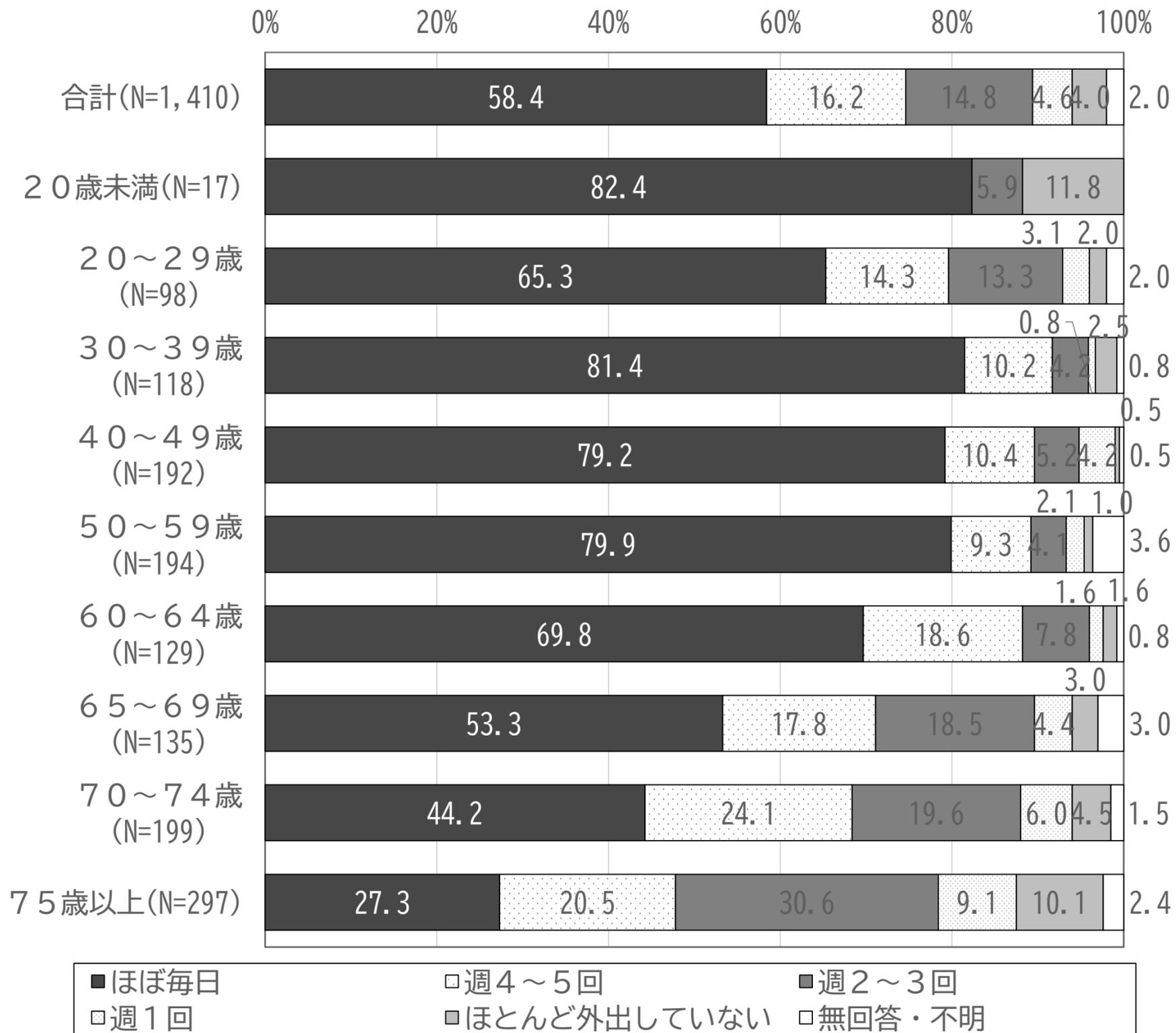
飯塚地区」が56.3%、「穂波地区」が20.1%、「庄内地区」が8.9%、「筑穂地区」が8.5%、「穎田地区」が3.3%となっています。

■同居しているひと



「二世代世帯(親と子)」が41.6%、「夫婦(もしくはパートナー)のみ」が26.9%、「単身(ひとり暮らし)」が17.7%となっています。

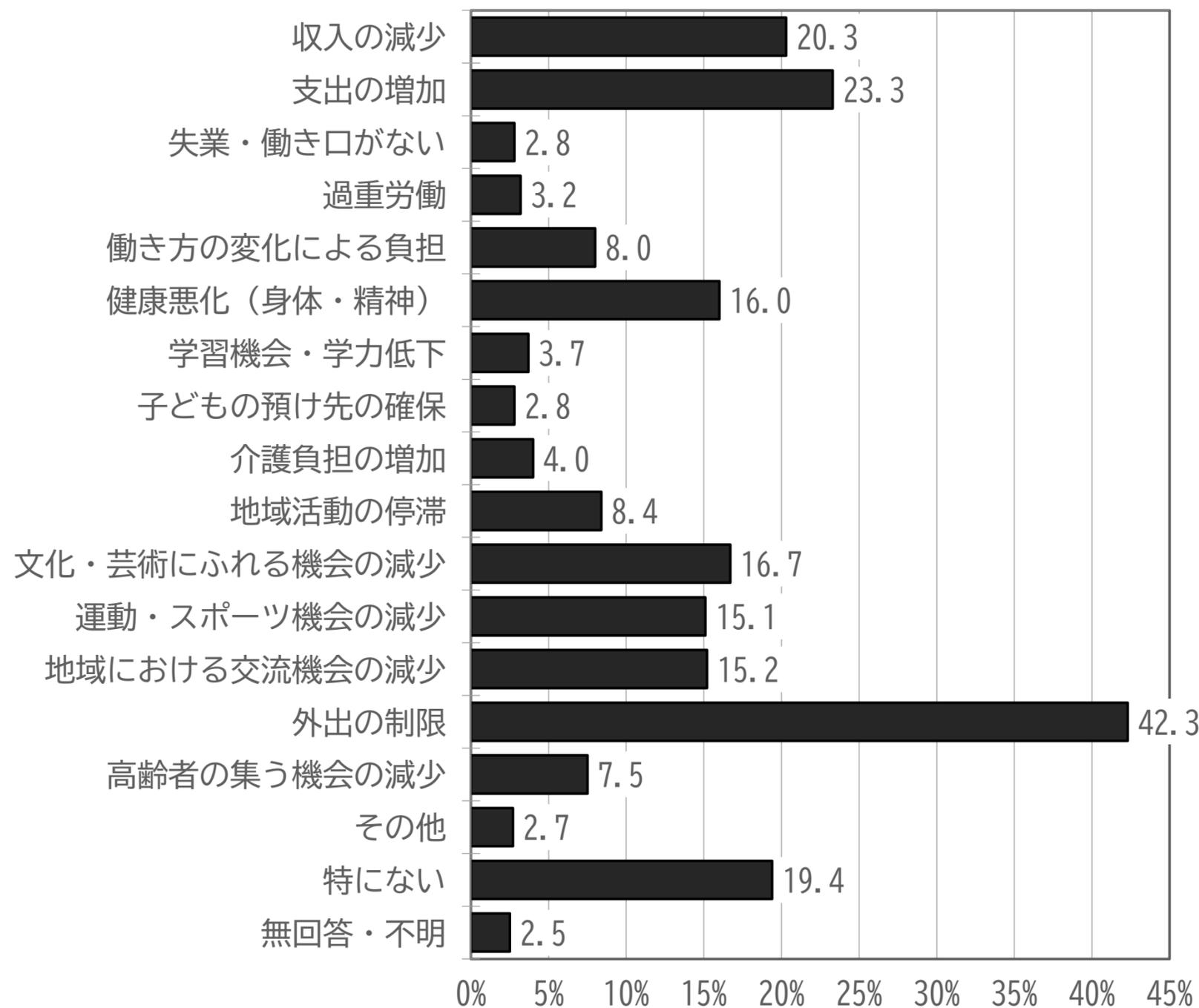
外出の頻度



- 「ほぼ毎日」の割合は、「30~39歳」から年代が上昇するにつれてその割合が減少しています。
- ほとんど外出していない」の割合は、「70~74歳」で4.5%、「75歳以上」で10.1%となっています。
- また、「75歳以上」では、「週2~3回」の割合が最も高くなっています。

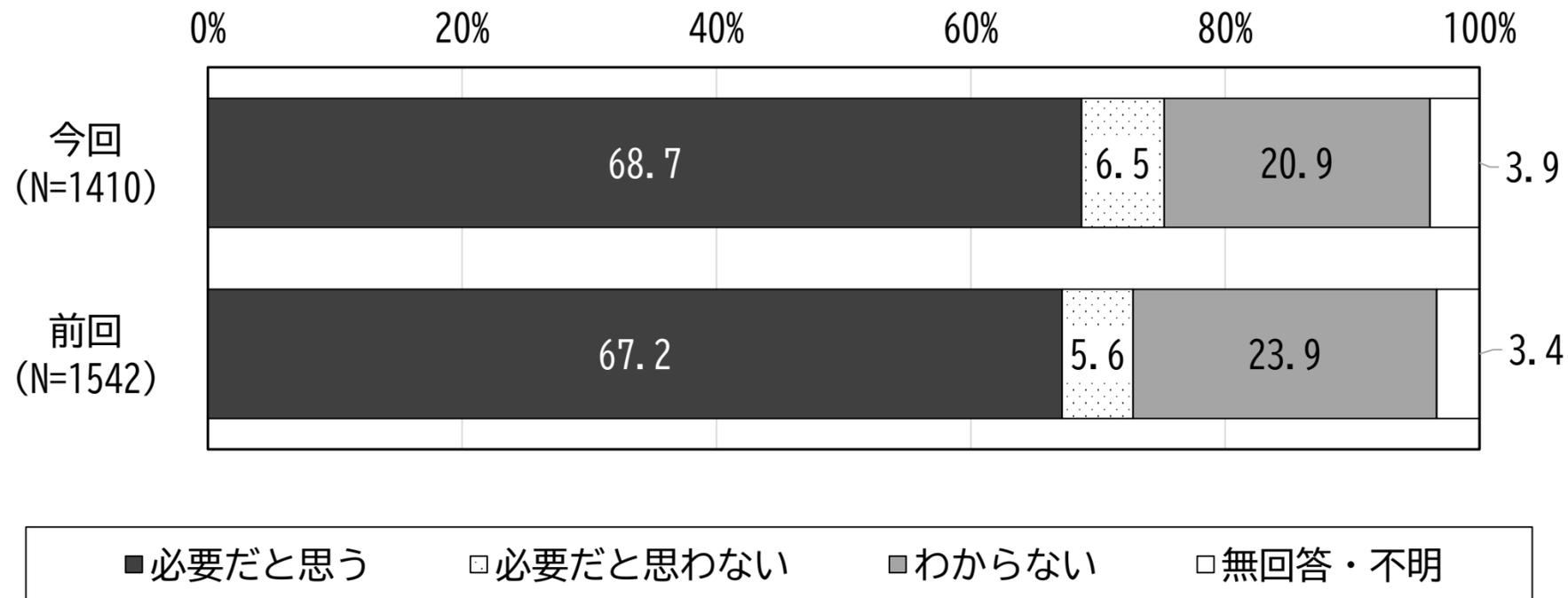
新型コロナウイルス感染症の流行で困っていること

N=1,410



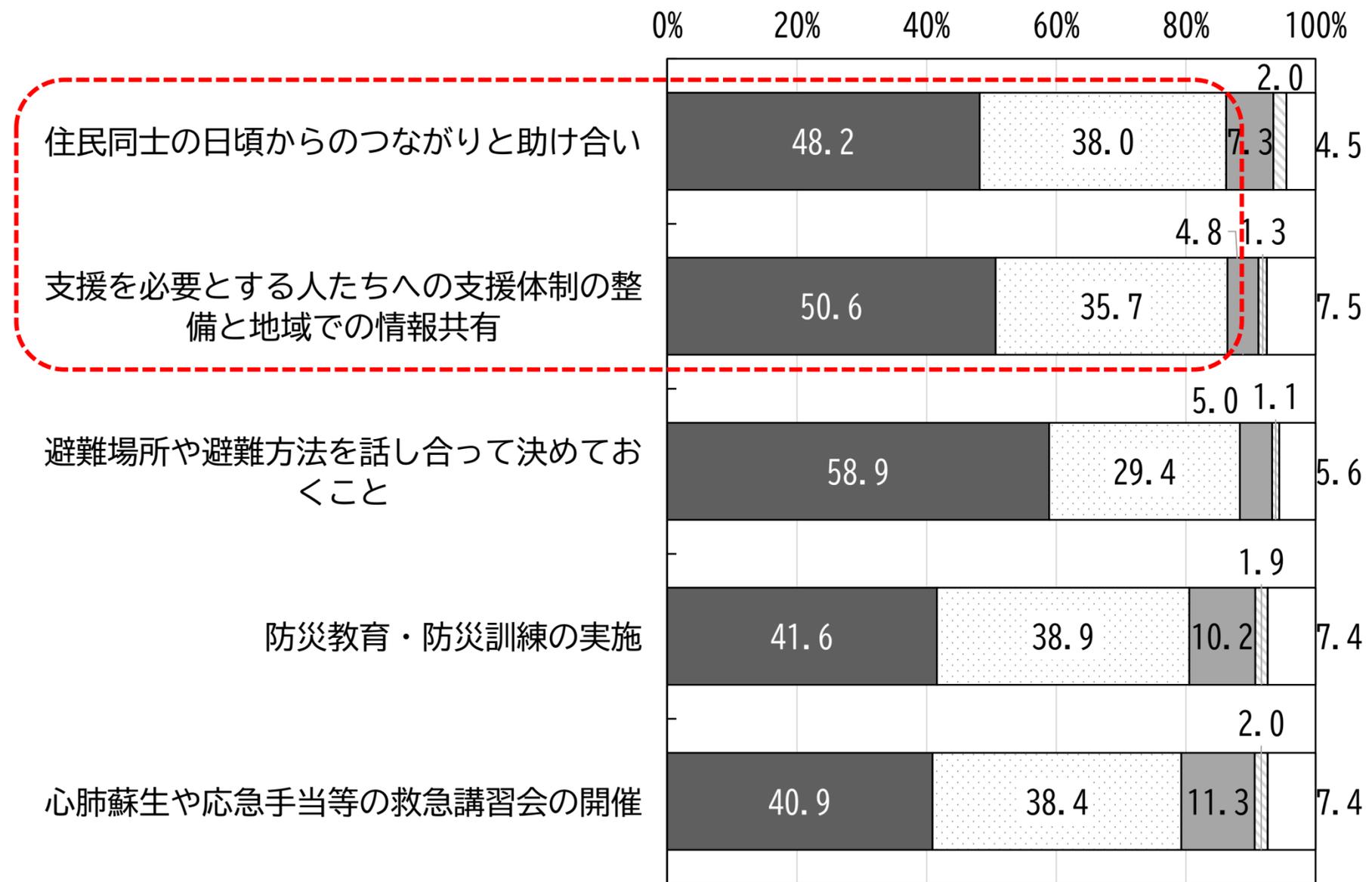
- 「外出の制限」が42.3%で最も高くなっています。次いで「支出の増加」が23.3%、「収入の減少」が20.3%で続いています。

地域の助け合いが必要だと思いますか。



- 「必要だと思う」が68.7%を占めています。「わからない」が20.9%、「必要だと思わない」が6.5%で続いています。
- 前回と比較すると、大きな違いは見られません。

地域における災害対策について、どのように思いますか。

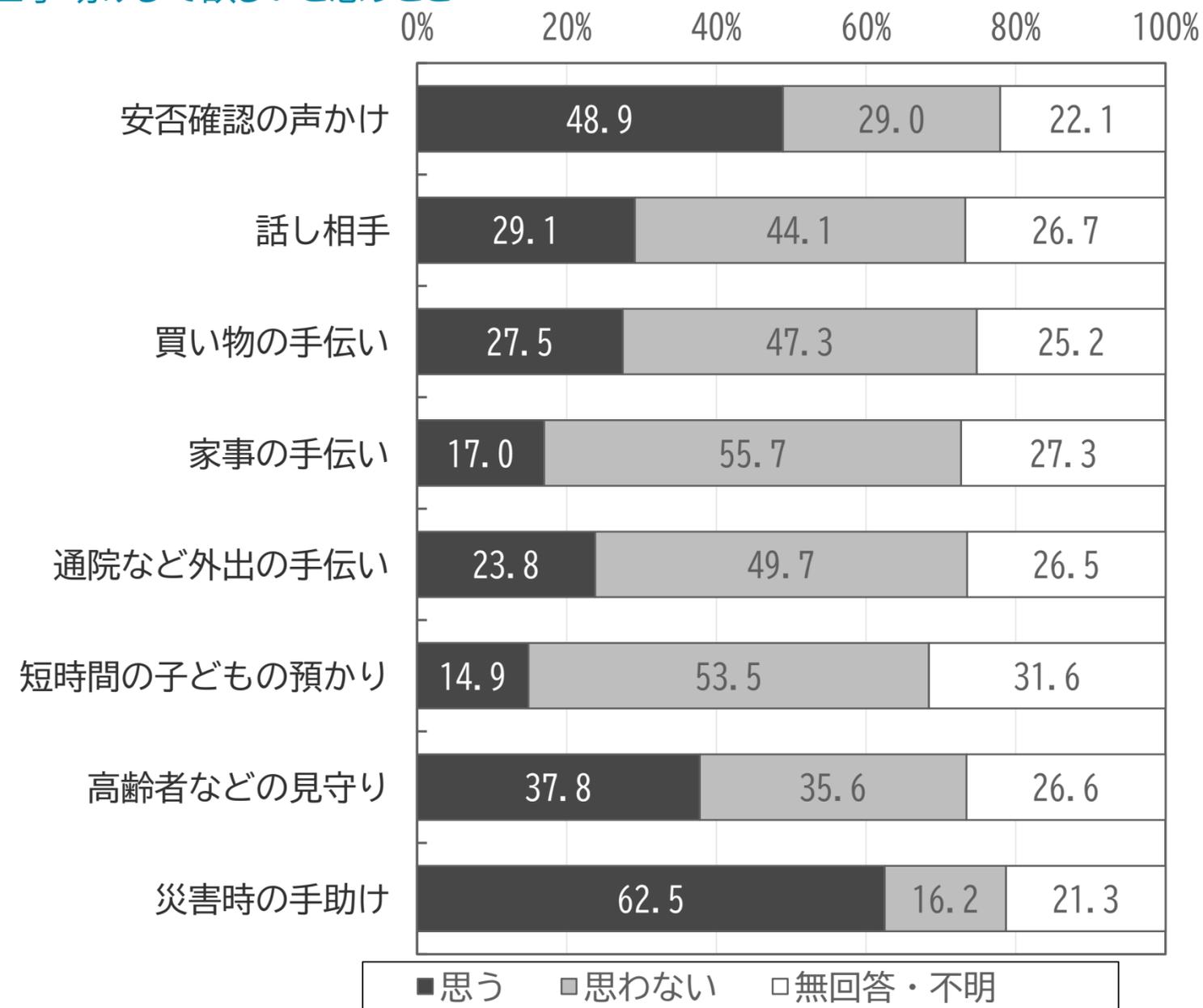


- 多くの人が、災害時に住民同士の日ごろのつながりと助け合いが必要だと思っている。

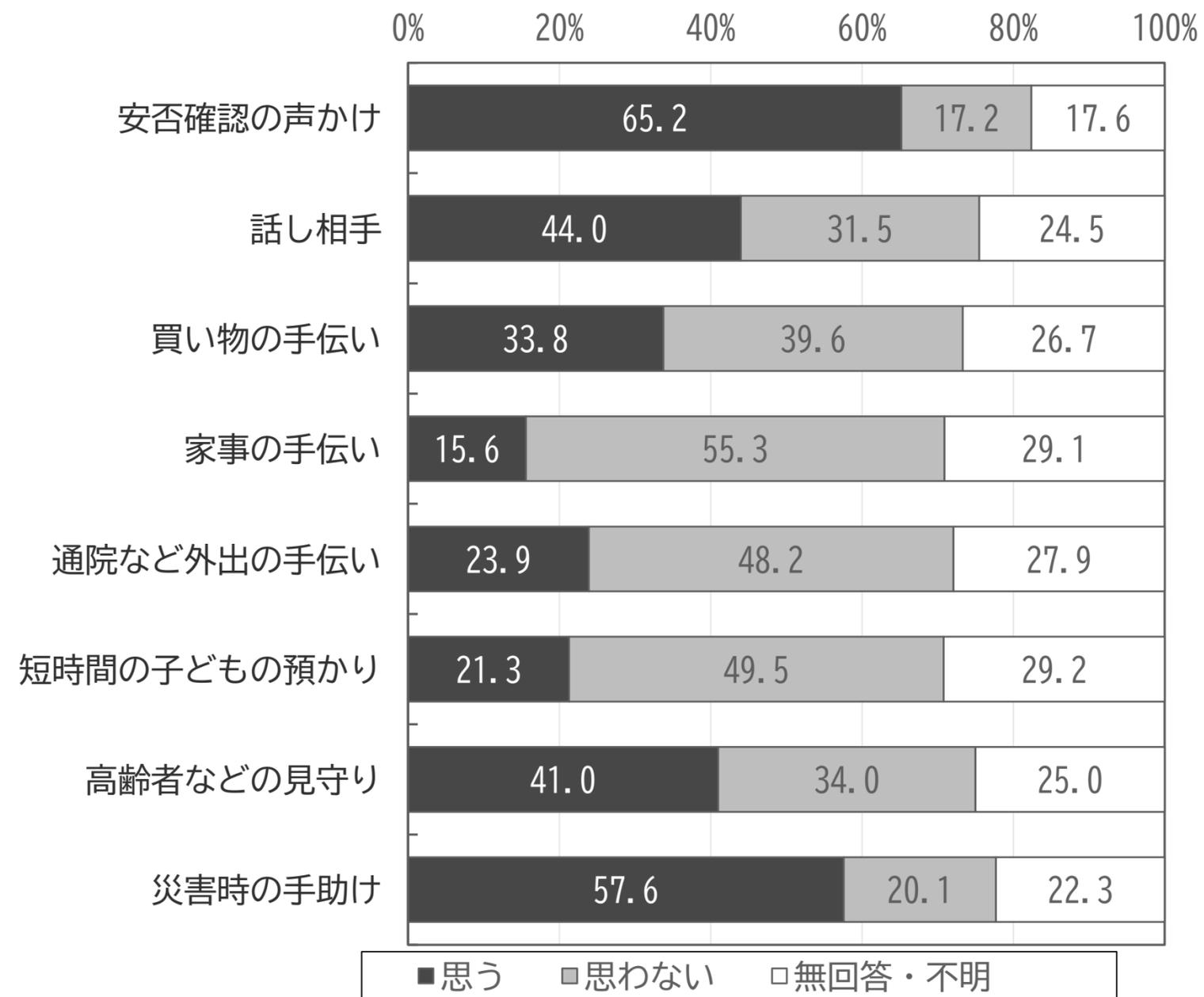
必要だと思う
 やや必要だと思う
 あまり必要だと思わない
 必要だと思わない
 無回答・不明

「手助けして欲しい」と思うこと / 「手助けできる」と思うこと

■手助けして欲しいと思うこと

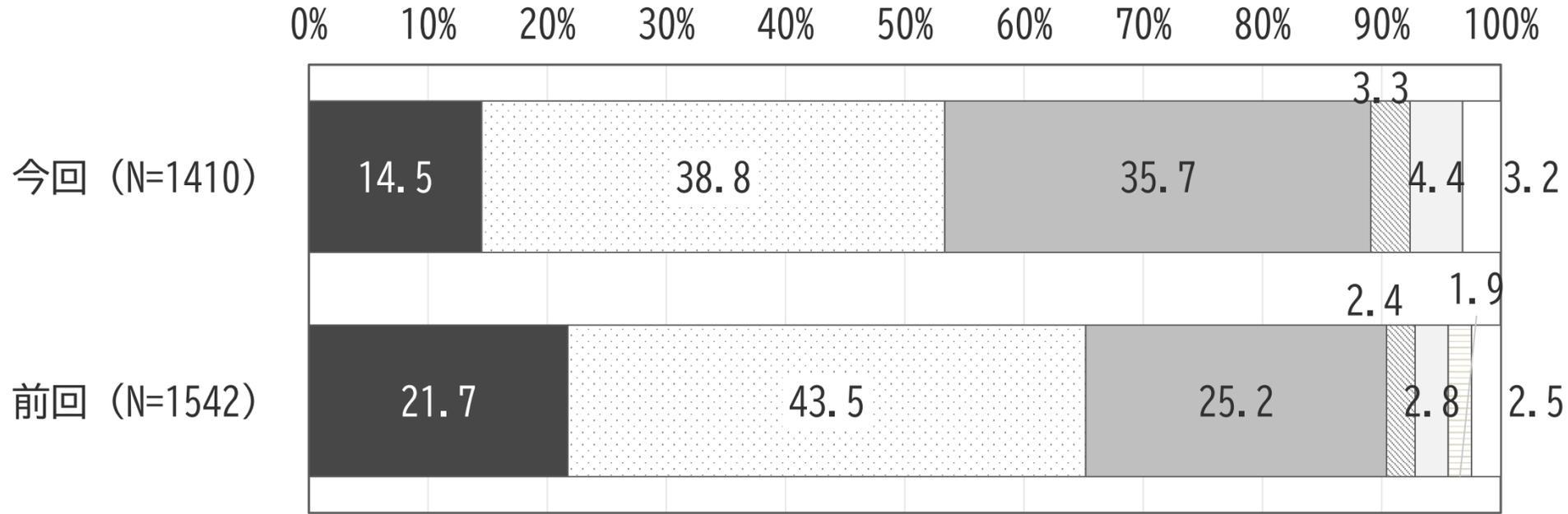


■手助けできると思うこと



「短時間の子どもの預かり」「家事の手伝い」等のよりプライベートに近い領域では、手助けして欲しいと思う割合も、手助けできると思う割合の低くなっています。

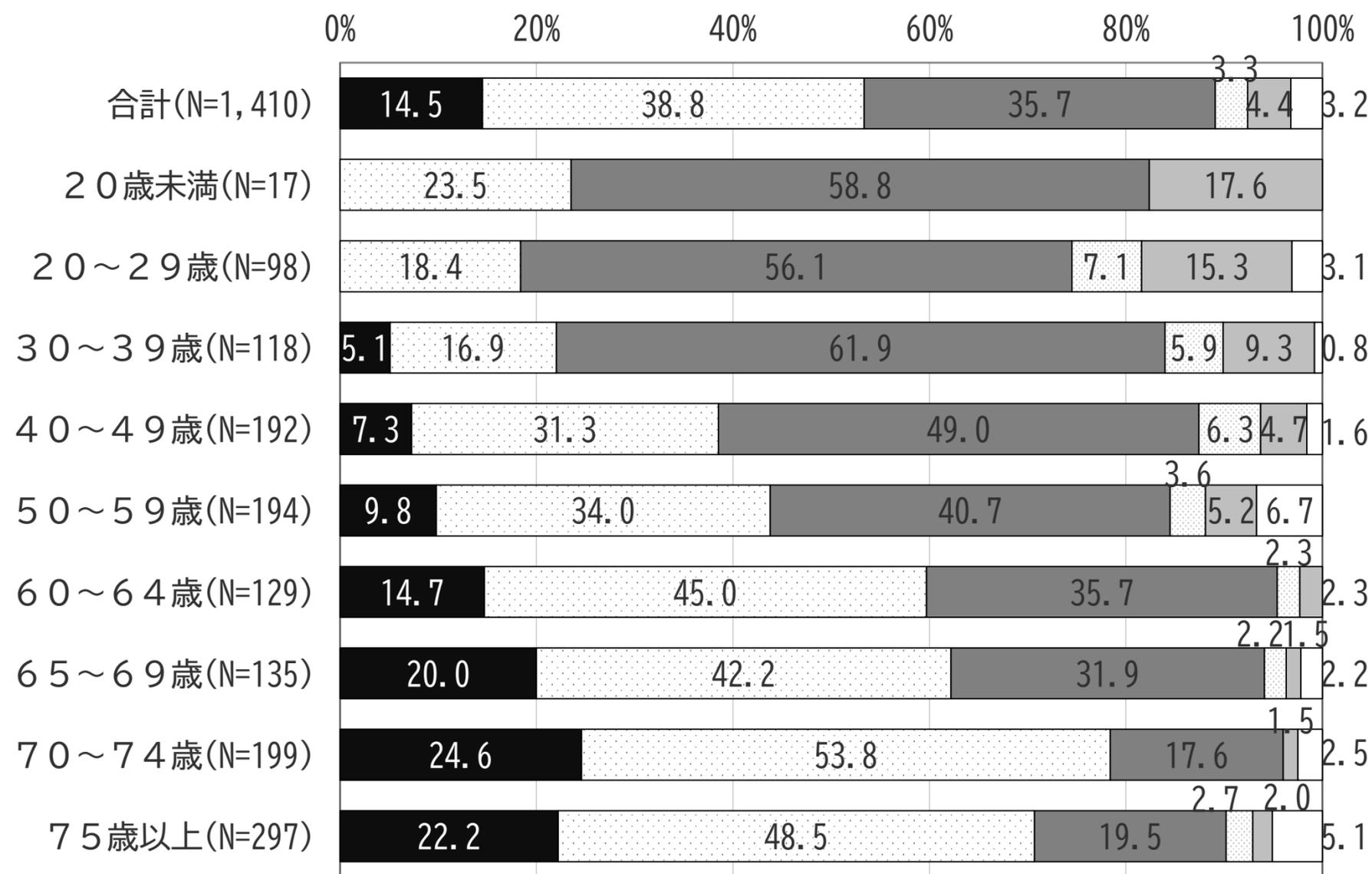
ご近所の人とどのようなつきあいをされていますか。



- 前回と比較すると、「互いに相談したり、生活面で協力しあっている」「特に親しい人はなく、外で会えば世間話をする程度のつきあいをしている」の割合が減少し、「あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない」の割合が増加しています。

- 互いに相談したり、生活面で協力しあっている
- 特に親しい人はなく、外で会えば世間話をする程度のつきあいをしている
- あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない
- ▨ ほとんどあいさつもしない
- 近所に誰がいるかも知らない
- その他
- 無回答・不明

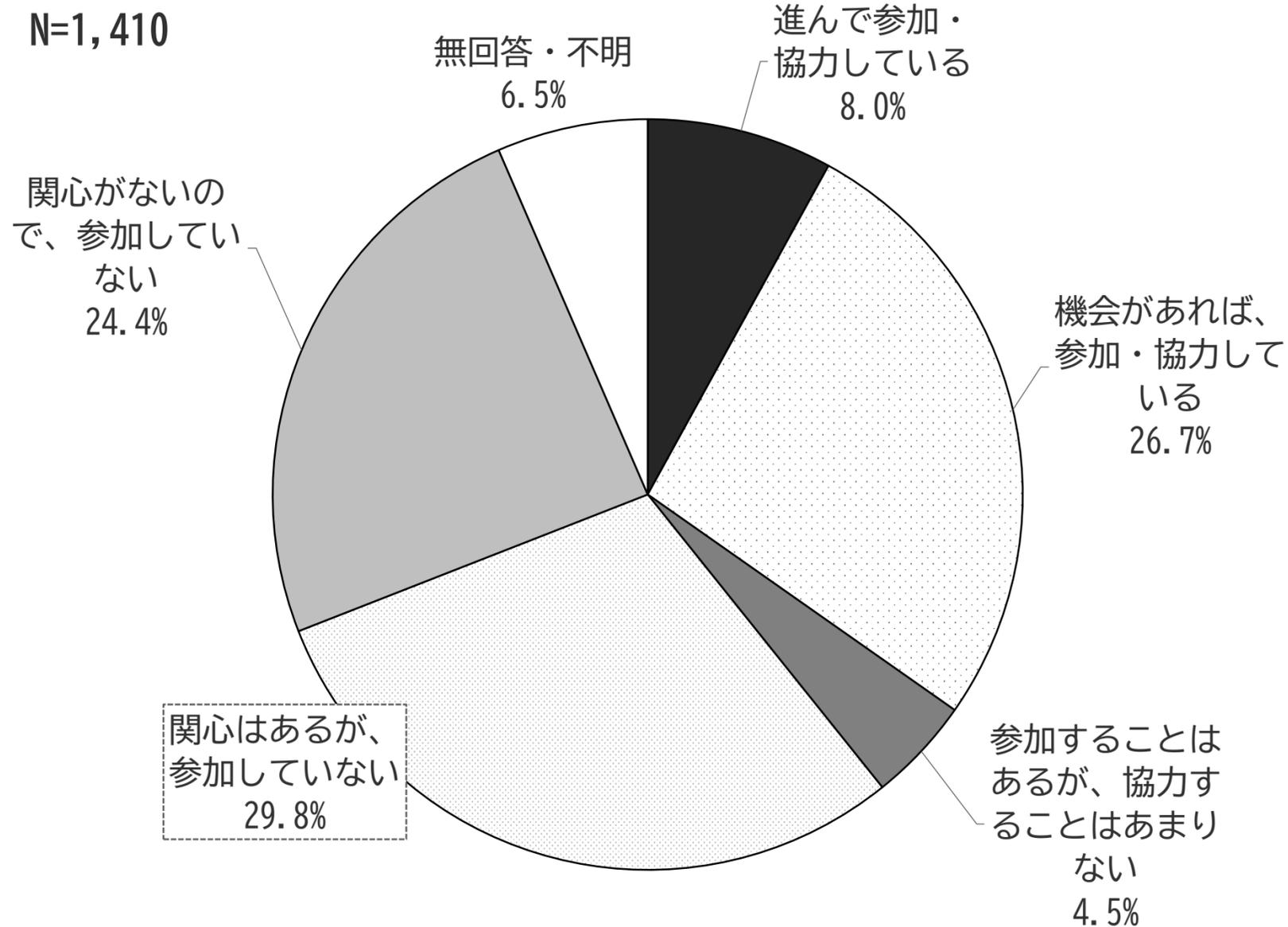
ご近所の人とどのようなつきあいをされていますか。(年代別)



- 年代別にみると、「互いに相談したり、生活面で協力しあっている」の割合は「65～69歳」以上の年代で高くなっています。
- 「30～39歳」以下の年代では、「あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない」の割合が約6割となっています。

■ 互いに相談したり、生活面で協力しあっている
 □ 特に親しい人はなく、外で会えば世間話をする程度のつきあいをしている
 ■ あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない
 □ ほとんどあいさつもしない
 □ 近所に誰がいるかも知らない
 □ 無回答・不明

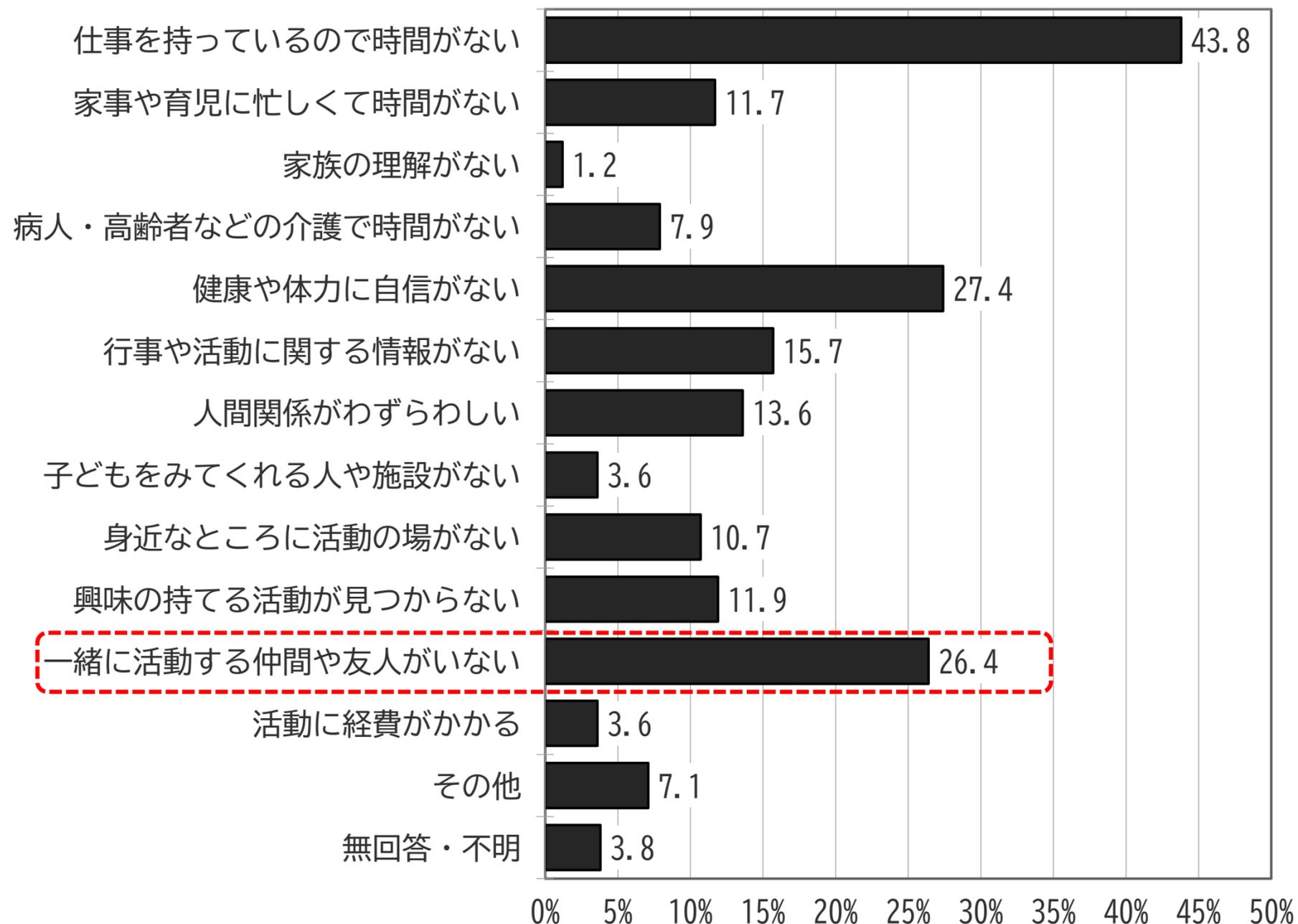
自治会活動等の地域活動や地域の行事へ参加されていますか。



- 「興味はあるが、参加していない」が29.8%で最も高くなっています。
- 次いで「機会があれば、参加・協力している」が26.7%、「興味がないので、参加していない」が24.4%で続いています。

「関心はあるが参加していない」人の参加しない理由

N=420



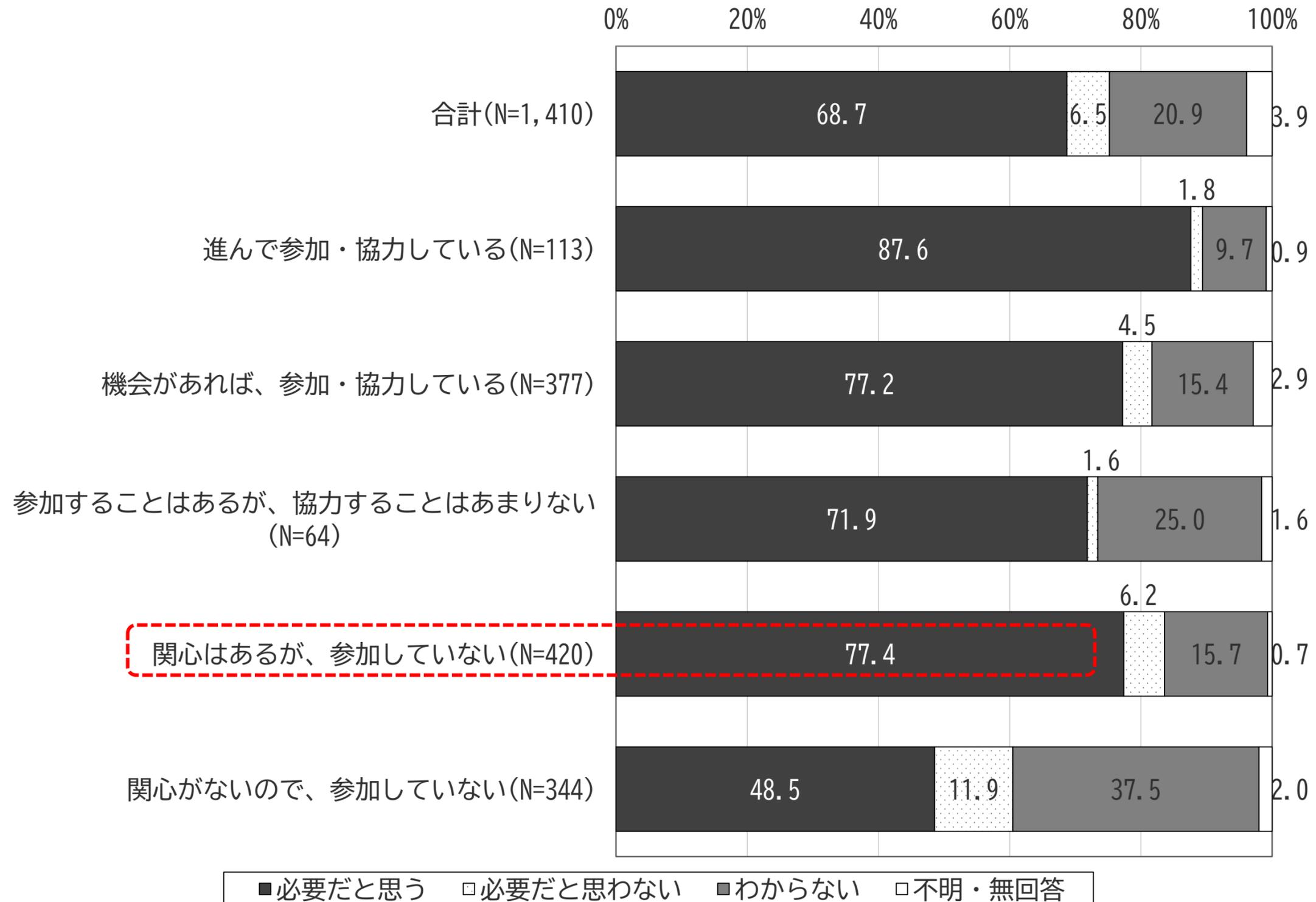
- 「仕事を持っているので時間がない」が43.8%で最も高くなっています。
- 次いで「健康や体力に自信がない」が27.4%、「一緒に活動する仲間や友人がいない」が26.4%で続いています。

年代別の参加できない理由

	全体 (N=420)	20歳未満 (N=2)	20～29歳 (N=37)	30～39歳 (N=31)	40～49歳 (N=57)	50～59歳 (N=54)	60～64歳 (N=38)	65～69歳 (N=38)	70～74歳 (N=48)	75歳以上 (N=105)
仕事を持っているので時間がない	43.8	100.0	51.4	74.2	78.9	74.1	60.5	21.1	27.1	6.7
家事や育児に忙しくて時間がない	11.7	-	24.3	71.0	21.1	9.3	-	-	-	1.0
家族の理解がない	1.2	-	-	6.5	3.5	-	-	2.6	-	-
病人・高齢者などの介護で時間がない	7.9	-	-	3.2	3.5	18.5	7.9	5.3	8.3	9.5
健康や体力に自信がない	27.4	-	8.1	6.5	8.8	14.8	23.7	39.5	31.3	54.3
行事や活動に関する情報がない	15.7	-	27.0	32.3	10.5	16.7	13.2	15.8	20.8	7.6
人間関係がわずらわしい	13.6	-	8.1	12.9	12.3	9.3	23.7	15.8	20.8	10.5
子どもをみてる人や施設がない	3.6	-	13.5	22.6	3.5	1.9	-	-	-	-
身近なところに活動の場がない	10.7	50.0	16.2	12.9	10.5	1.9	7.9	15.8	12.5	9.5
興味を持てる活動が見つからない	11.9	-	5.4	19.4	8.8	11.1	21.1	7.9	18.8	10.5
一緒に活動する仲間や友人がない	26.4	50.0	37.8	35.5	28.1	38.9	26.3	26.3	27.1	11.4
活動に経費がかかる	3.6	-	5.4	3.2	-	-	13.2	5.3	6.3	1.0
その他	7.1	-	5.4	-	7.0	5.6	5.3	10.5	4.2	12.4
無回答・不明	3.8	-	2.7	-	3.5	-	-	5.3	2.1	8.6

- 年代別にみると、「60～64歳」までの世代では「仕事を持っているので時間がない」の割合が高く、それ以上の年代では「健康や体力に自信がない」の割合が高くなっています。
- 「30～39歳」では「家事や育児に忙しくて時間がない」の割合が高くなっています。また、「一緒に活動する仲間や友人がない」も全体的に高くなっています。

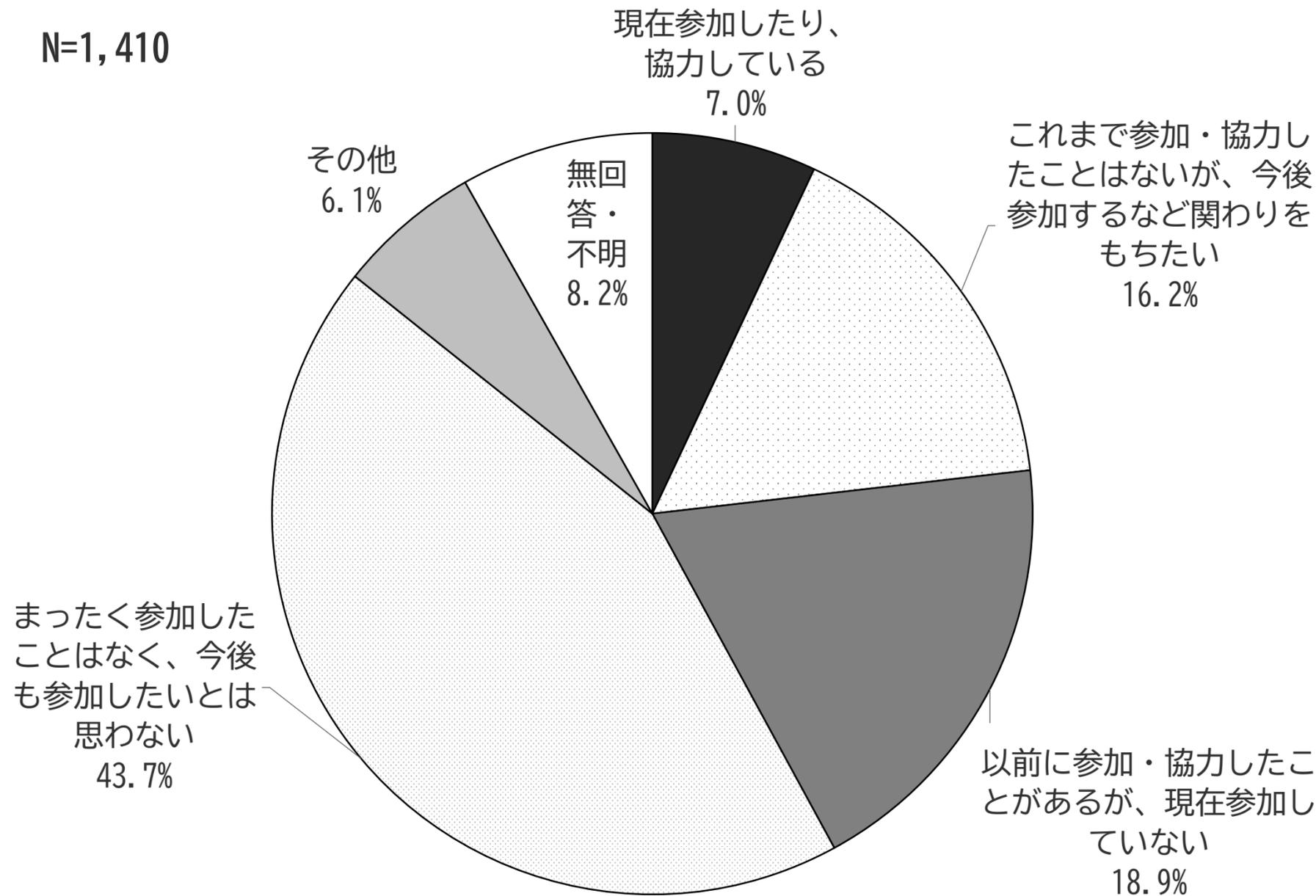
地域活動参加×地域の助け合いが必要だと思いますか



- 「関心はあるが、参加していない」人の地域の助け合いに対する考えは、地域活動に参加している人とあまり変わらない。

まちづくり、スポーツ等のNPO活動、ひとり暮らしのお年寄りの見守りや子育て支援等のボランティア活動に参加したり、協力したりしたことがありますか。

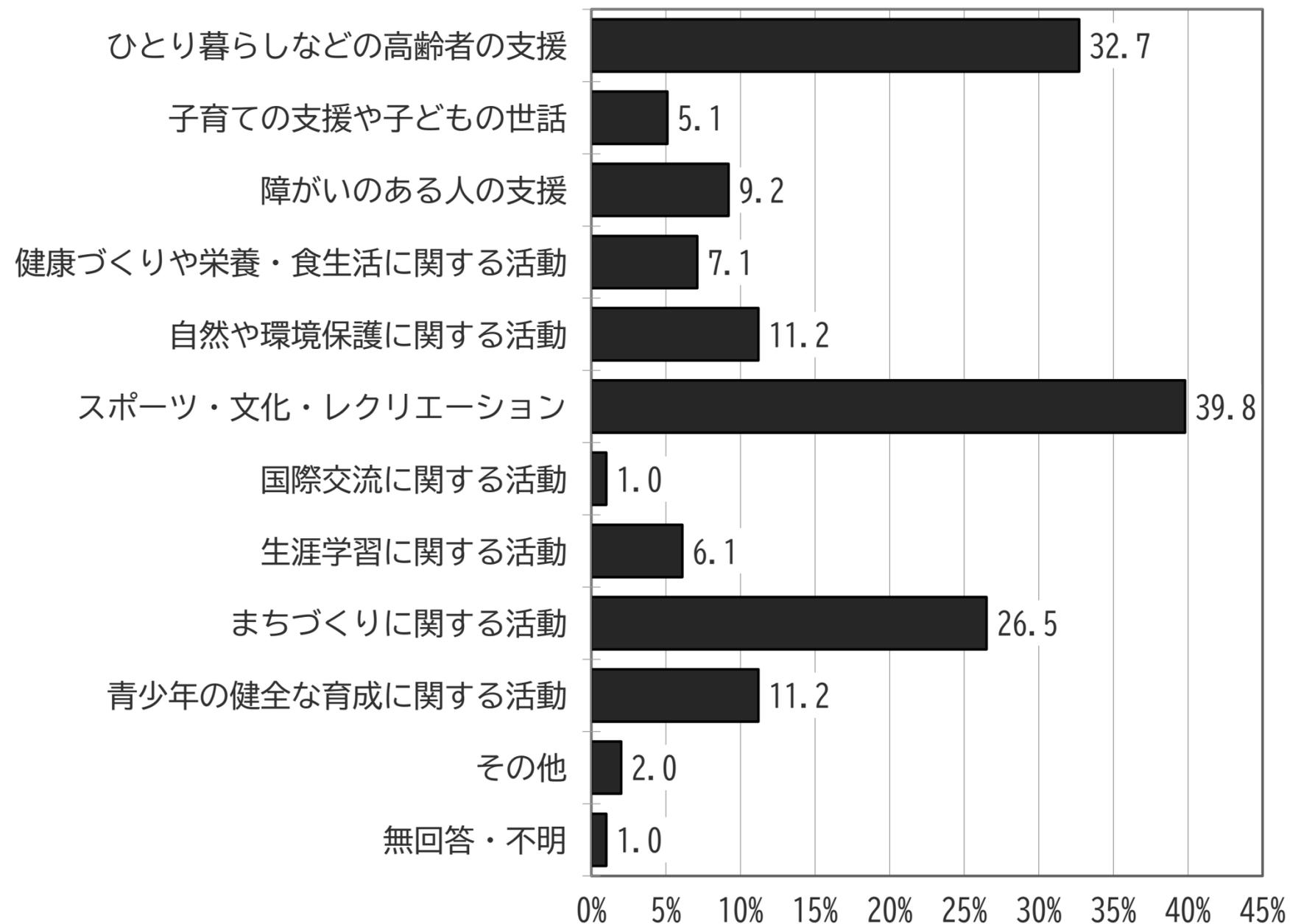
N=1,410



- 「まったく参加したことはなく、今後参加したいとは思わない」が43.7%で最も高くなっています。
- 次いで「以前に参加・協力したことがあるが、現在参加していない」が18.9%、「これまで参加・協力したことはないが、今後参加するなど関わりをもちたい」が16.2%で続いています。

どのような活動に参加しているか。

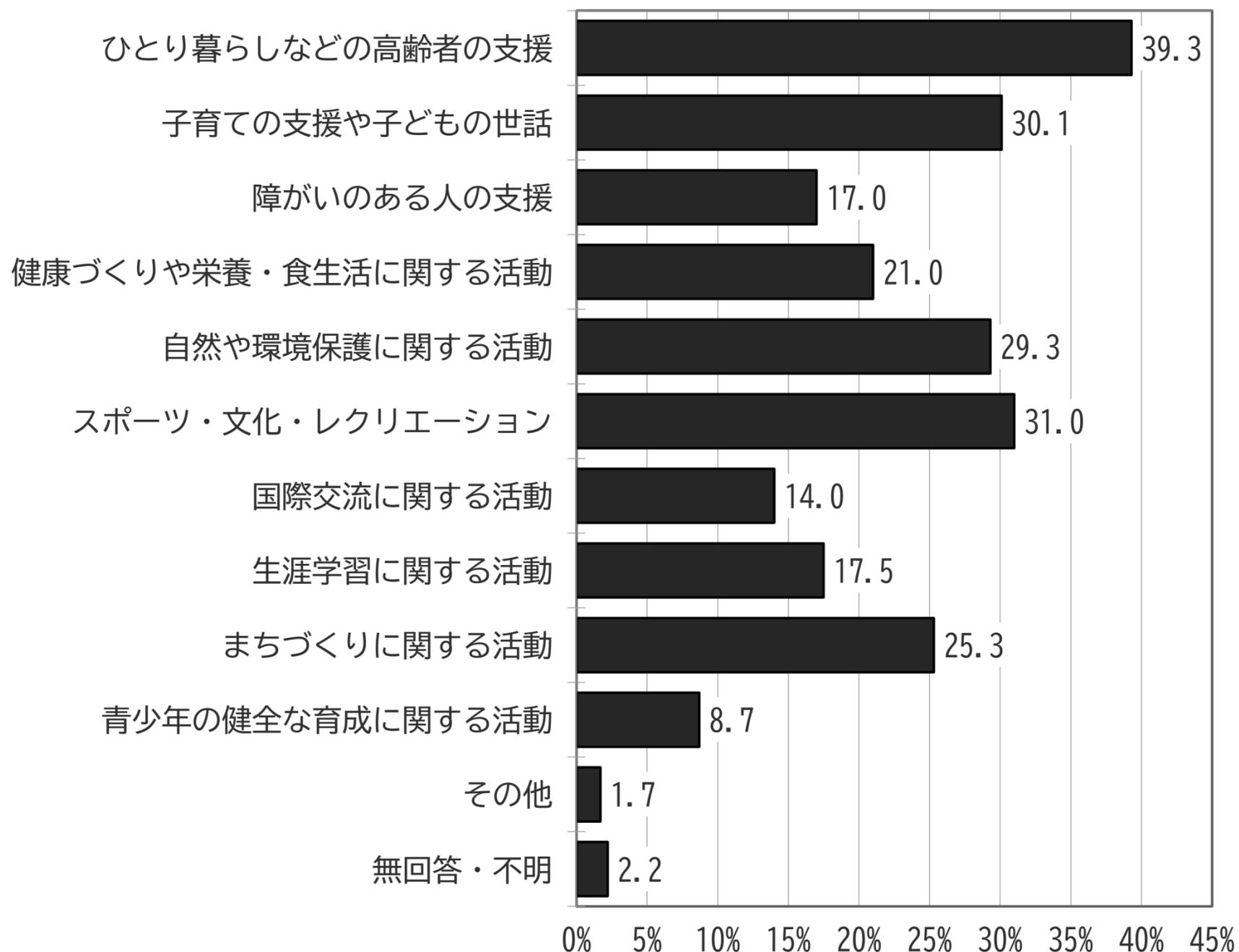
N=98



- 「スポーツ・文化・レクリエーション」が39.8%で最も高くなっています。
- 次いで「ひとり暮らしなどの高齢者の支援」が32.7%、「まちづくりに関する活動」が26.5%で続いています。

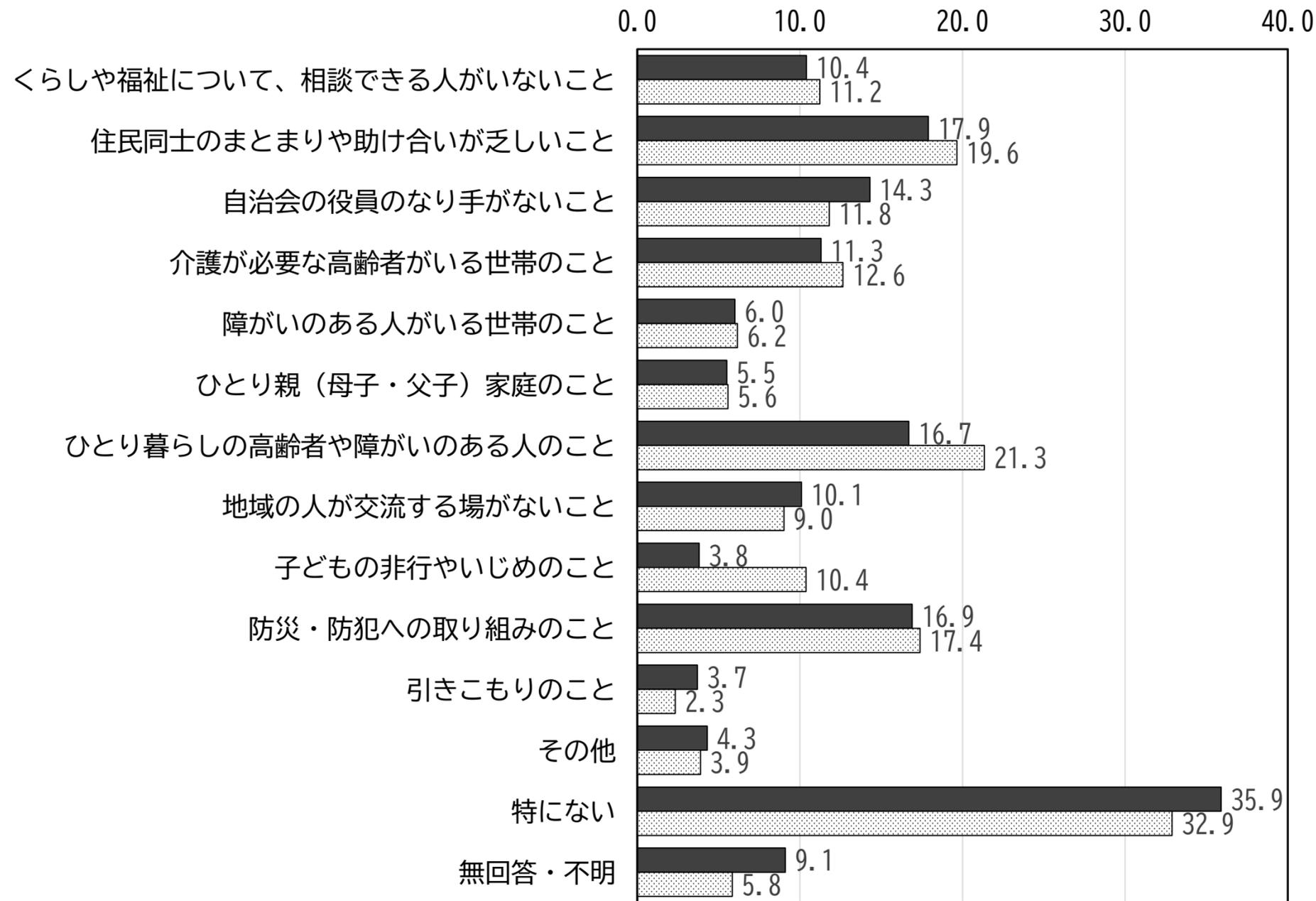
どのような活動に参加したいか

N=229



- 「ひとり暮らしなどの高齢者の支援」が39.3%で最も高くなっています。
- 次いで「スポーツ・文化・レクリエーション」が31.0%、「子育ての支援や子どもの世話」が30.1%で続いています。

あなたが住んでいる地域のことで困っていることや課題だと感じていること



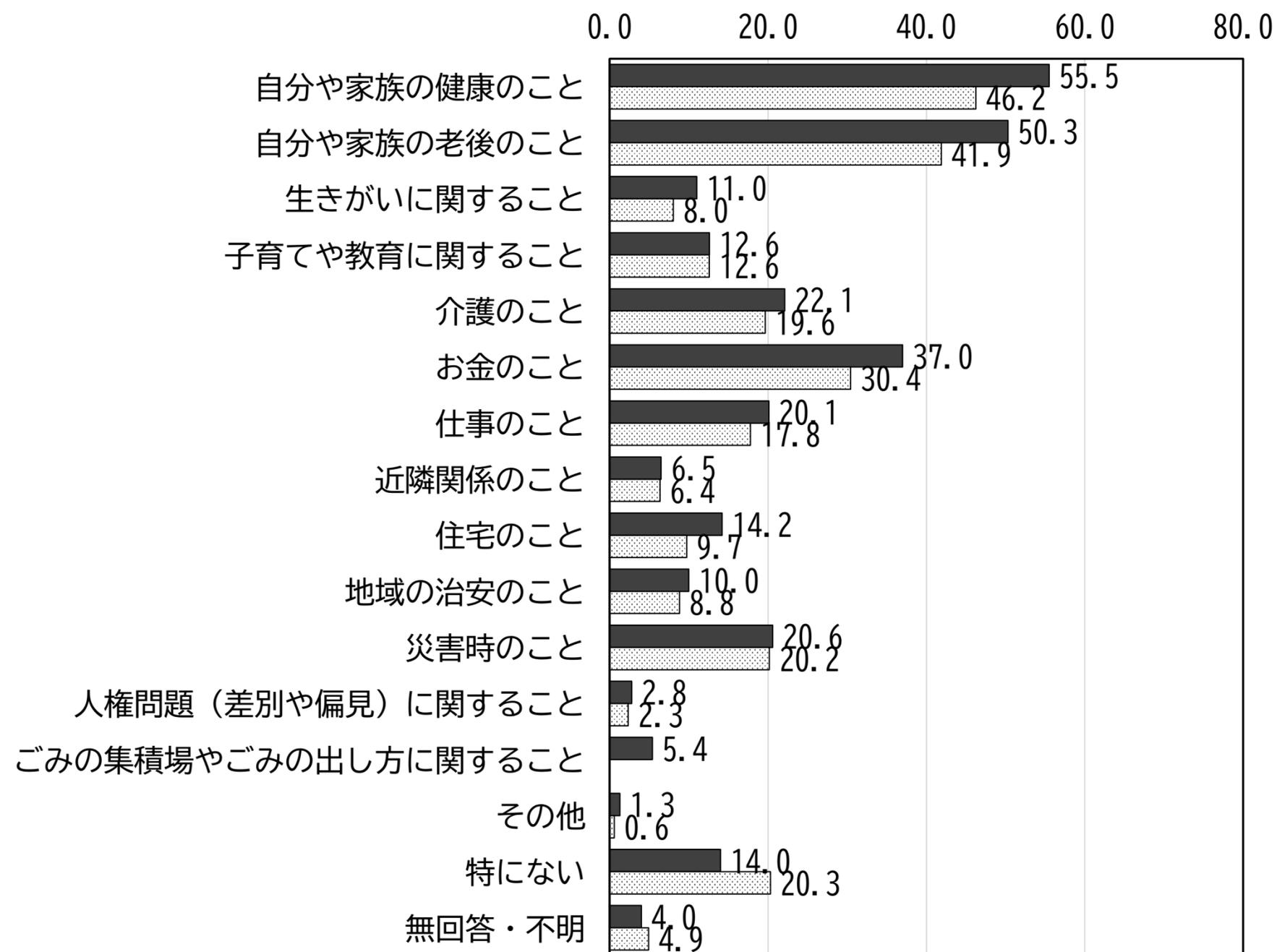
- 「特にない」が35.9%で最も高くなっています。
- 次いで「住民同士のまとまりや助け合いが乏しい」が17.9%、「防災・防犯への取り組みのこと」が16.9%で続いています。
- 前回と比較すると、「ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人のこと」の割合が若干減少しています。

■ 今回 (N=1,410)

▨ 前回 (N=1,542)

福祉政策について

日々の生活においてどのような悩みや不安を感じているか



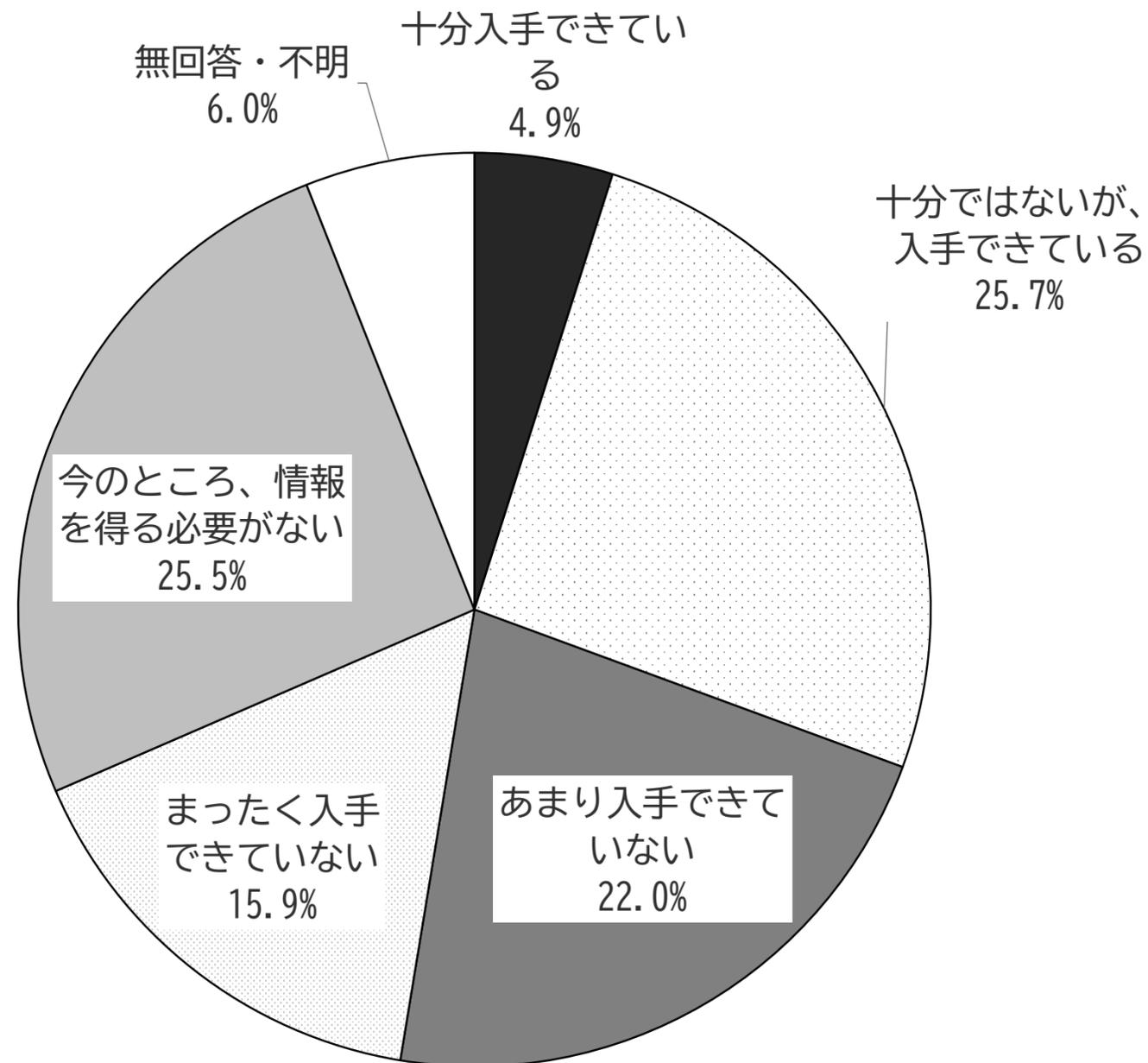
- 「自分や家族の健康のこと」が55.5%を占めています。
- 「自分や家族の老後のこと」が50.3%、「お金のこと」が37.0%で続いています。
- 前回と比較すると、「自分や家族の健康のこと」「自分や家族の老後のこと」「お金のこと」が増えています。

■ 今回 (N=1410)

▨ 前回 (N=1542)

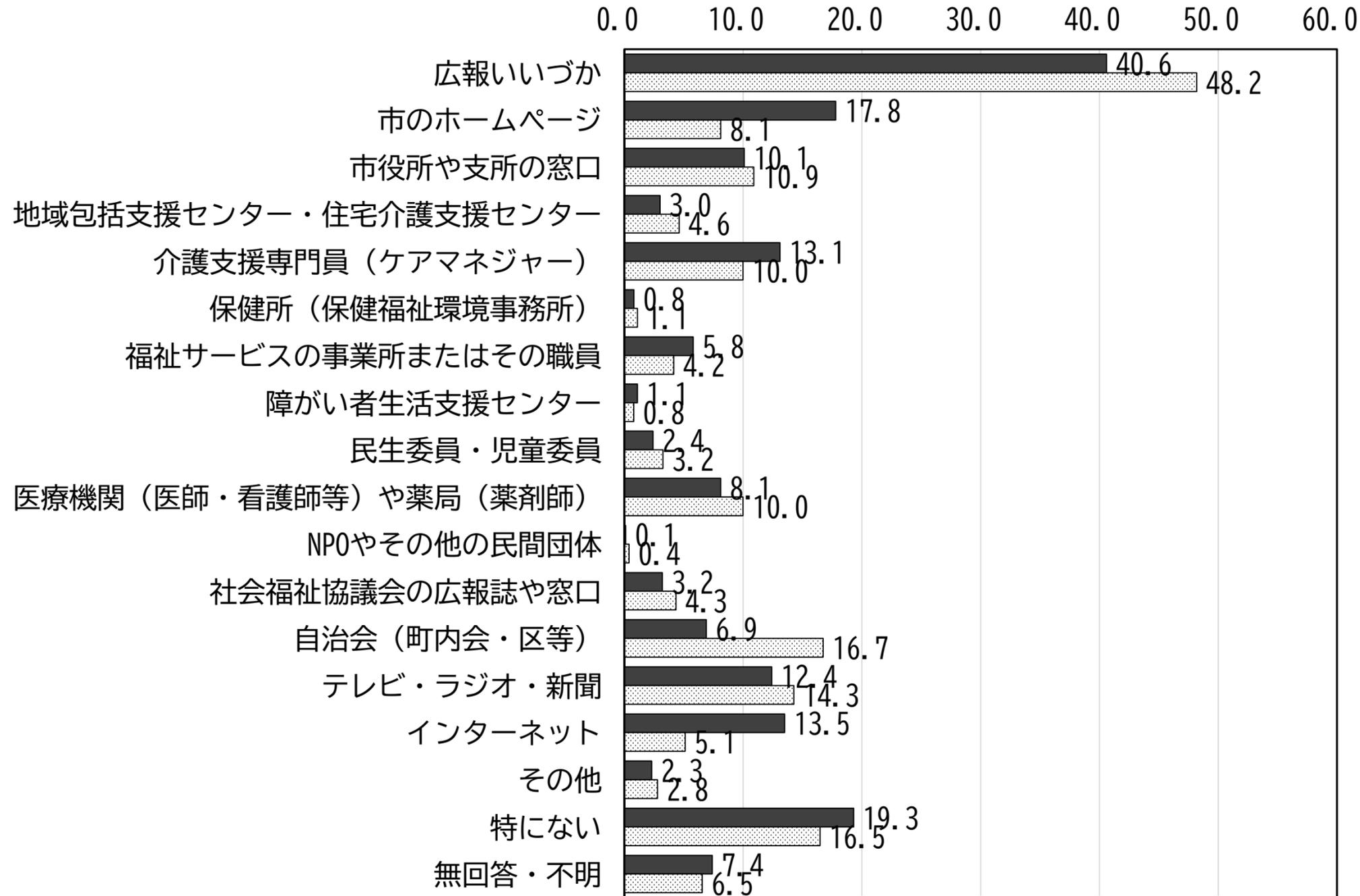
福祉サービスに関する情報等、自分や家族に必要な支援・サービスの情報をどの程度入手できているか

N=1,410



- 「十分ではないが、入手できている」が25.7%で最も高くなっています。
- 次いで「今のところ、情報を得る必要がない」が25.5%、「あまり入手できていない」が22.0%で続いています

福祉サービスに関する情報の入手先

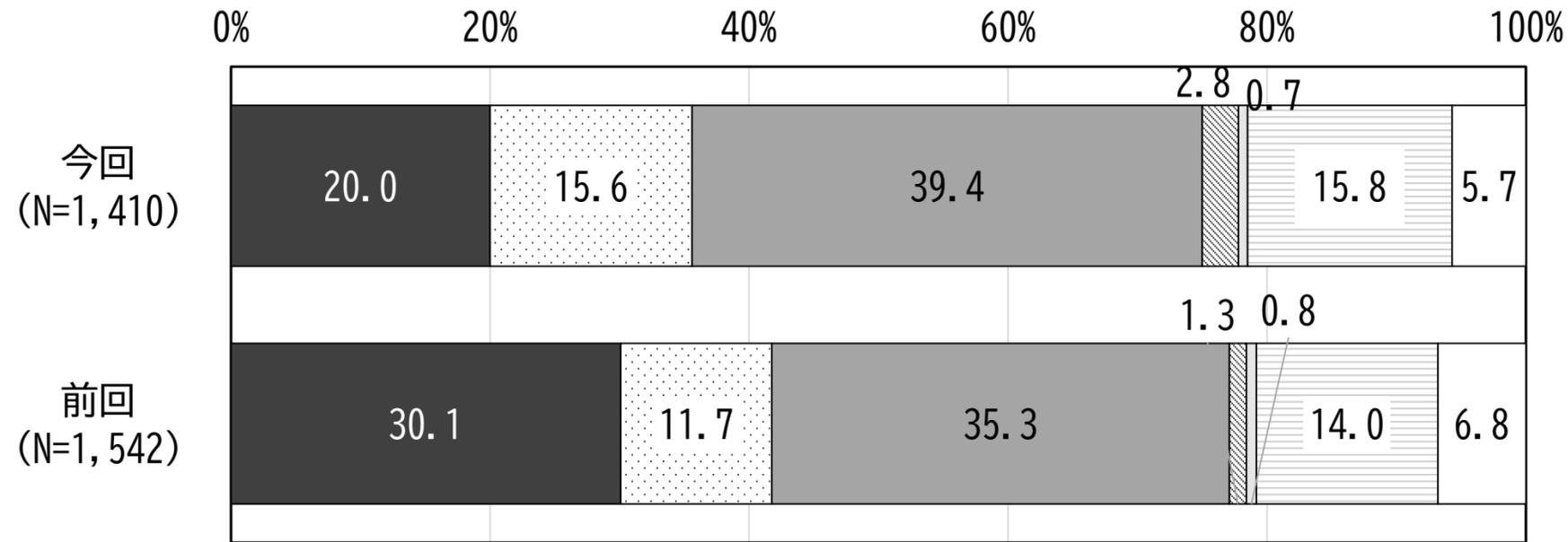


- 「広報いいづか」が40.6%で最も高くなっています。次いで「特にない」が19.3%、「市のホームページ」が17.8%で続いています。
- 前回と比較すると、「広報いいづか」「自治会（町内会・区等）」は減少しています。「市のホームページ」「インターネット」が増加しています。

■ 今回 (N=1410)

■ 前回 (N=1542)

社会福祉サービスを充実させていくうえで、行政と地域住民の関係について

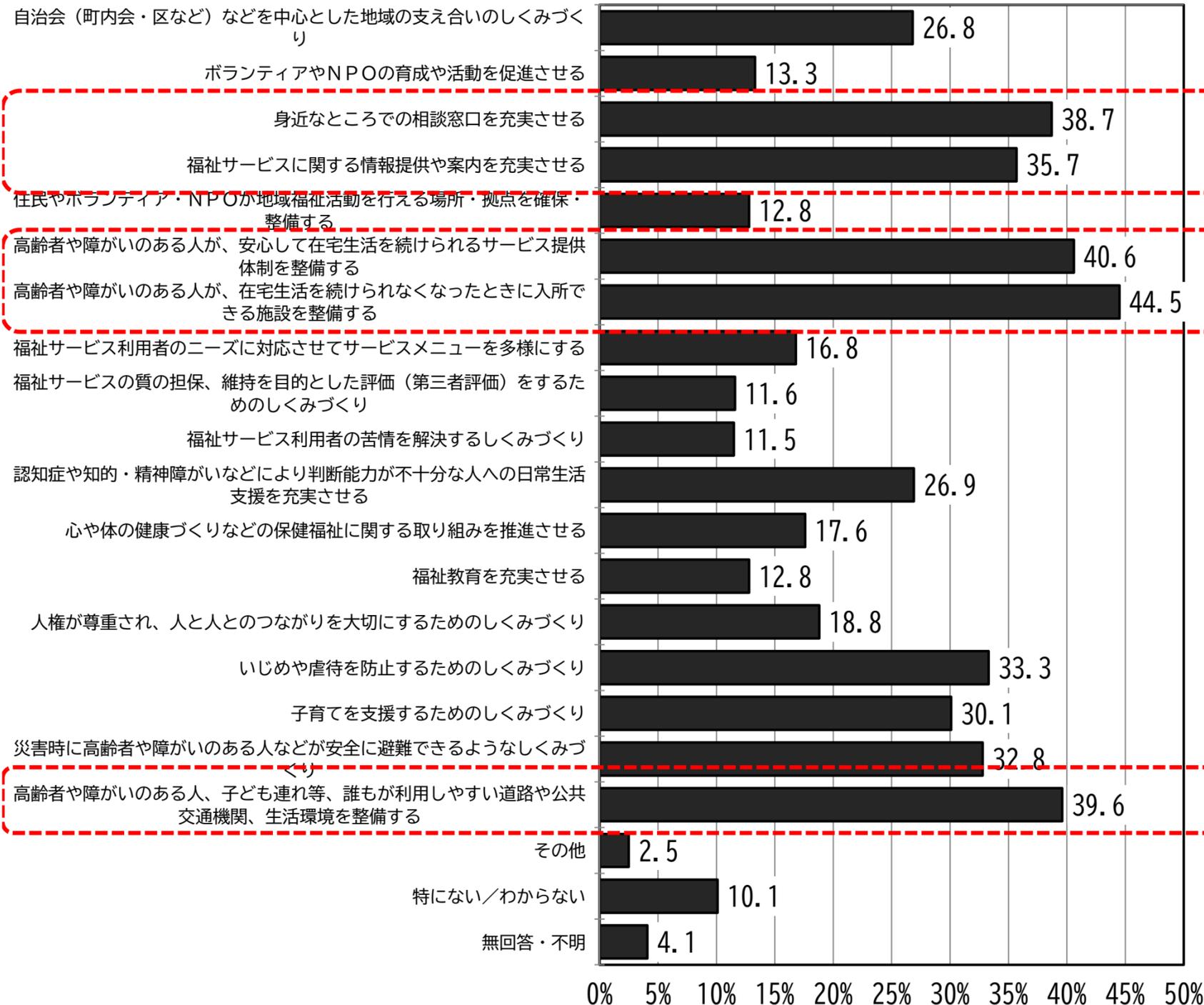


- まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する
- まず行政が実施し、できない場合に住民が協力する
- 福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組む
- ▨ 社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力しなくてもよい
- その他
- わからない
- 無回答・不明

- 「福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組む」が39.4%で最も高くなっています。次いで「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する」が20.0%、「わからない」が15.8%で続いています。
- 前回と比較すると、「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する」が約10ポイント減少しています。

地域福祉の基盤整備のために、飯塚市はどのような施策を優先的に取り組むべきか

N=1,410

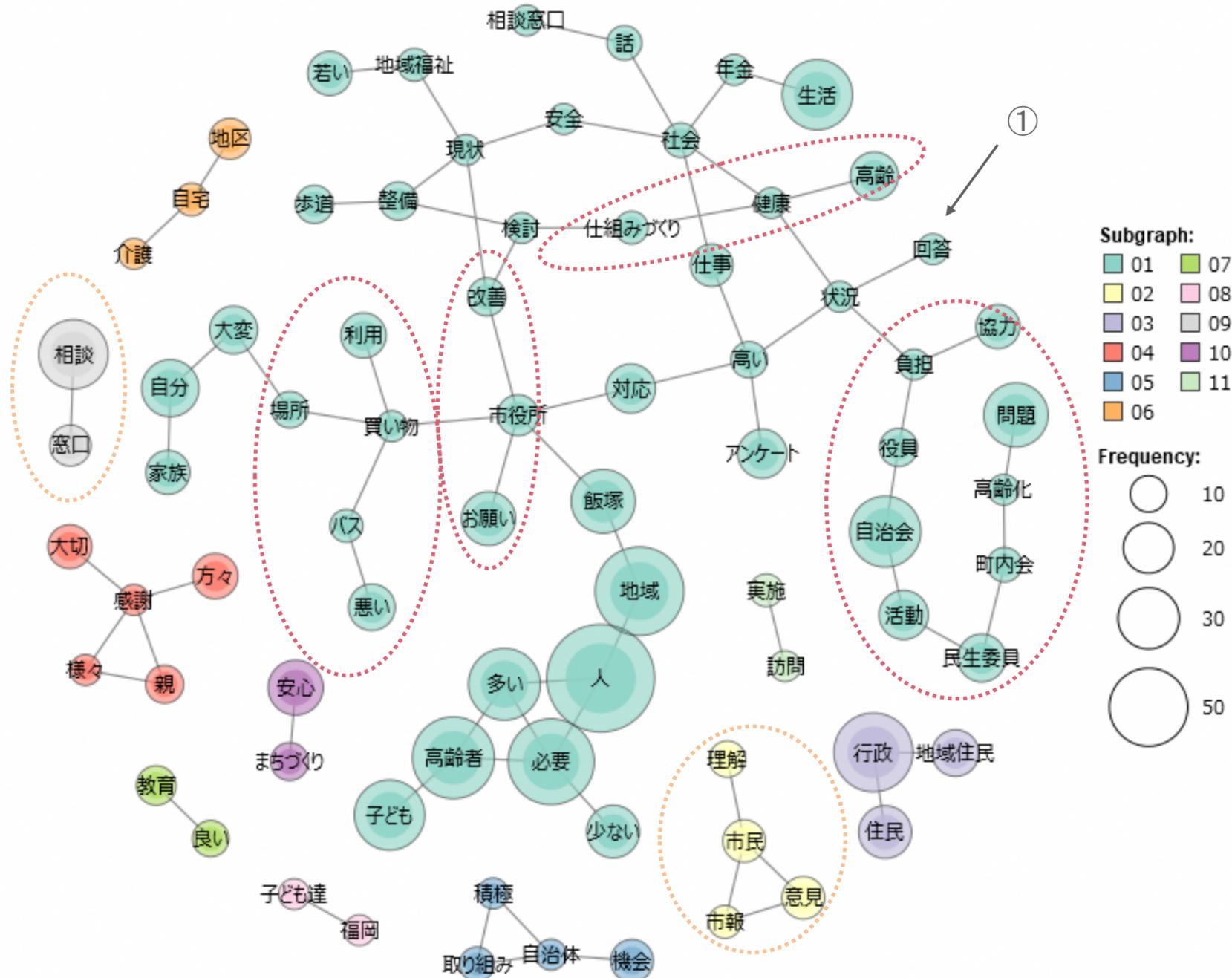


「高年齢者や障がいのある人が、在宅生活を続けられなくなったときに入所できる施設を整備する」(44.5%)
 「高年齢者や障がいのある人が、安心して在宅生活を続けられるサービス提供体制を整備する」(40.6%)
 「高年齢者や障がいのある人、子ども連れ等、誰もが利用しやすい道路や公共交通機関、生活環境を整備する」(39.6%)
 「身近なところでの相談窓口を充実させる」(38.7%)
 「福祉サービスに関する情報提供や案内を充実させる」(35.7%)

の割合が高くなっていることを考えると、

- 「高年齢者になっても安心して暮らせるようにしてもらいたい」という意識があり、
- 「当事者になったとき、必要な情報を容易に得たいということや気軽に相談できるようにしてもらいたい」といった意識が多数。

地域福祉に対する意見、要望等（自由回答）



①の単語どうしの繋がりをみると、単語数も多く繋がりも広がっています。主な単語を拾ってみると、「自治会」-「役員」-「負担」-「活動」-「民生委員」-「町内会」-「高齢化」という繋がりがみられます。

また、「買い物」-「バス」-「悪い」-「場所」-「大変」という繋がりがみられます。他に、「高齢」-「健康」-「仕組みづくり」、「市役所」-「対応」-「改善」、「歩道」-「整備」といった繋がりがみられます。

①以外の繋がりをみると、「相談」-「窓口」という繋がりがみられ、気軽に相談できる窓口があればという意見があることが伺えます。「市報」-「意見」-「市民」-「理解」という繋がりがみられ、福祉に関する情報を市民が理解できるようにして欲しいという意見があることが伺えます。

地域福祉に対する意見、要望等（自由回答）

■自治会等に関すること

性別	年代	地区	内容
女性	50～59歳	穂波地区	行政は自治会（町内会・区など）に頼り過ぎている。末端では多くの問題を抱えていることをご存知だろうか？町内会は行事参加の強制や高齢化の問題等課題だらけだ。色んな選択肢や個人の尊重が優先されなければならない時代に全く合っていない。
女性	40～49歳	飯塚地区	地域活動のなり手が年々減っており、活動自体が厳しくなっている。昔ながらのやり方や活動内容ではなく現在の状況に必要なものにアップデートしなければ、ますます自治会活動などは敬遠されると思う。 障がい者や高齢者への地域包括ケアは素晴らしい取り組みだと思うが今のままだと絵に描いた餅にしかない。皆が自分ごととして捉えられるよう地域住民への啓発活動が望まれる。
女性	20歳未満	飯塚地区	まずは、自治会ごとなどで協力し合える環境をしっかりと整える。町内の清掃活動などは若い人はあまり参加していないと思うので、若い人にも積極的に地域活動に参加してもらえるように声掛けなどをする。ひとり暮らしの高齢者の方や、生活が厳しい人に対しての支援、見守り制度を充実させるべきだと思います。

■高齢者に関すること

性別	年代	地区	内容
男性	40～49歳	庄内地区	バス停や駅もない地域が多数ある。田舎ほど高齢者が多く、免許を返納した後の交通手段がない。コミュニティバス等の早急な拡充が必要。
女性	70～74歳	飯塚地区	運転免許証を返納した時、その後の買い物、病院行きの利用するサービスがあった方がよい。返納した後、タクシー、バスとか利用するのは年金暮らしの者は金額が痛いからなかなか返納しにくい。高齢者の事故が多くなったので、返納しようかと思いますがなかなかできません。

地域福祉に対する意見、要望等（自由回答）

■相談、相談窓口に関すること

性別	年代	地区	内容
女性	65～69歳	穎田地区	私達高齢者もこれからの生活、不安でいっぱいです。不安を持っている市民が困っている時すぐに相談できる窓口を設けて頂きたい。たらい回しをされる事が多く、窓口の一本化を望みます。
女性	70～74歳	飯塚地区	相談できる場所が気軽にできるようになってほしいと思います。
男性	40～49歳	飯塚地区	今困っている事に関して、どこに相談に行ったらいいかわからない、相談に行っても窓口が違うと言われ、隣の窓口を案内されてまた別の窓口に…同じ話を何度もしないといけなくなったり…と、相談するだけで時間や労力、精神的にも疲弊してしまう事もあります。相談事を総合的に聴いてもらい、相談内容に応じて担当者の方が代わったり、あるいは別々の部署の方が一緒に話を聴いてくれたりと…と、1カ所で相談が済むような「総合相談窓口」の設置が望まれます。 子どもの事からの高齢の方、障がいをお持ちの方まで誰もが安心して相談できるような仕組みづくりが必要であると感じています。
男性	20～29歳	飯塚地区	様々に団体が混在しており、どの団体に相談すればよいか分かりづらいので、総合窓口を設置し、紹介業務を行ってほしい。何より、分かりやすさを重視したサービスを実施していただきたい。

地域福祉に対する意見、要望等（自由回答）

■福祉に関する情報に関すること

性別	年代	地区	内容
女性	30～39歳	—	制度やサービスは充実していると思うが、それを知る機会が圧倒的に少ないと思う。実際に困ってから調べると必要なサービスを受けられるまでに時間を要することが予想されるので、困っていないときに制度やサービスを知る機会が必要だと思う。
女性	50～59歳	穂波地区	まずは助けてもらえる。ひとりではない。など何かしたら支援を受けることができるということを知っていることが大切であると思うので、相談できる窓口を増やす。情報発信が大切だと思います。
女性	40～49歳	飯塚地区	飯塚市で行なっている地域福祉に関する活動を積極的に、いろいろな機会でもっとアピールしてもらわないと若い世代は、自分に関係ないと思いがちだし、興味すらわかない。しかし、若い世代がもっと関わらないと、現状は変わらないと思う。 また、飯塚市内の活動だけでなく、全国的にもっと言えば世界的に福祉活動を積極的に取り組んでいる自治体の活動などを情報収集し、紹介する。いずれは飯塚でも取り組めるようにするには、どうすべきかを考えるといった取り組みはいかがでしょうか。
女性	20歳未満	飯塚地区	20代以下は自治体の話し合いや行事に参加する機会が少ないため制度や委員の人を知らないし、どんな取り組みを行っているのかも分からない。そういうことを知るための機会を設けてくれると興味がでて参加することも増えると思う。

■地域福祉の体制、仕組みづくりに関すること

性別	年代	地区	内容
女性	40～49歳	飯塚地区	常に情報共有ができるように体制作りが必要。飯塚市ならではの高齢者、障がい者、子どもといったトータルでサポートできる、システムを構築していける体制作り。携わる者としては、そう願います。
女性	40～49歳	筑穂地区	顔の見える関係作りが大事で、障害や子育て、高齢者という枠組みで考えるのではなく、家族丸ごと見ていく必要があると考えます
女性	50～59歳	飯塚地区	福祉サービスを受ける者同士が協力し合うことのできる仕組みづくりができればよいと思う（受ける側と提供する側に分けない）。そのグループを支援するのが行政であればいいのかなと思いますが、まだ当事者でないのかわからないことが多くあります。
女性	60～64歳	飯塚地区	相談に来られるのを待つだけでなく、地域の事情を把握できる仕組みづくり。
女性	40～49歳	飯塚地区	行政が行っていることに対して、地域住民にどのような協力をしてもらいのかを明確にしないと、何を協力していいのかわからない。

団体ヒアリング調査結果の概要

調査概要

■調査目的

第3期飯塚市地域福祉計画策定にあたり、地域で活動している団体、地域福祉に協力している企業等から地域福祉における課題を把握するため。

■調査対象団体

- ・ 飯塚市ボランティア連絡協議会
- ・ 飯塚市・嘉麻市・桂川町障がい者基幹相談支援センター
- ・ 飯塚市民生委員・児童委員協議会
- ・ 飯塚市自治会連合会
- ・ 飯塚市老人クラブ連合会
- ・ いいづか男女共同参画推進ネットワーク
- ・ 飯塚市居宅介護支援事業者連絡協議会
- ・ NPO法人地域ネットワークサポート福岡
- ・ NPO法人飯塚市青少年健全育成会連絡協議会
- ・ NPO法人いいづか障害児者団体協議会
- ・ ぽれぽれの会（障がいを考える会）
- ・ 筑豊子育てネットワーク「かてて」
- ・ 中央福岡ヤクルト販売（株）東筑支社
- ・ グリーンコープ生協ふくおか筑豊支部委員会
- ・ かいた子育てサポートジャム
- ・ NPO法人人権ネットいいづか

■調査方法

記述式による事前調査に基づいて、対面式のグループインタビューを行った。事前調査は、調査票への記述式の回答方法。なお、グループインタビューについては、スケジュールの都合の合わなかった団体に対しては、個別ヒアリング、電話によるヒアリングを行った。

■調査項目

各分野における現状・課題。地域共生社会を構築するために必要なこと、等。

■調査期間

事前調査：2022年6月

ヒアリング調査：2022年9月5日、7日、8日

地域共生社会を構築するために（結果概要）

支援が必要な人にいかに
アプローチしていくか

地域との連携

情報の発信・共有

総合相談窓口

お互いを知るための交流の場

SOSを出せない人、相談へ行こうとする気持ちにならない人、問題を隠そうとする人等。本当に支援が必要な人にアクセスできる環境づくり。

上記の人たちを把握するには、各種団体と地域団体が連携する必要がある。

上記の人たちが相談へと足が向くように、情報発信のあり方を検討する必要がある。

相談の内容は、そこだけで終わるものは少ない。多くの機関が関わる必要がある。相談に来た人を、各機関に回していくのではなく、関係する人たちが一度に集まるということが必要。

世代や属性を超えて交流できる居場所が必要。知らないことが差別につながる。

まとめ

まとめ

■地域づくり

- 住民同士の付き合いの深さは、浅めになりつつあるが、地域で助け合うという意識は維持されている。
- 住民が適切な距離感で助け合える制度設計。
- 地域活動への参加については、関心があって参加していない人は3割程度いる。時間の問題や一緒に参加できるひとがいるかどうかという問題をクリアできれば、参加できる人たち。そのためにも、自治会のアップデートを検討する必要があるのでは。
- 地域福祉における「協働」の意識も向上しつつある。行政の情報発信、コーディネート能力の向上。
- 交通の問題、移動手段の問題。
- 世代や属性を超えて交流できる居場所。

■相談支援

- 相談しやすい環境整備、相談体制の充実（「総合相談窓口」）

■参加支援

- 本当に支援が必要な人にアクセスできる環境づくり。アウトリーチ活動の充実。
- 情報発信、情報の共有
- 地域団体と関係団体との連携